

Study Abroad Program in Hong Kong

短期海外研修（香港） 報告書

2017.

08.04~09.03



目次

本編

巻頭言	2
参加者プロフィール	3
香港基本情報	7
香港中文大学基本情報	10
中国語プログラム	14
ビジネスフィールドワーク	21
香港・マカオ・深セン観光	36
個別報告	46
編集後記	64

ミニコラム

①飲茶と点心	13
②おすすめの點心専門店	26
③面白い日本語	31

短期海外研修とグローバル人材

国際教育センター 教授 太田 浩

グローバル化と知識経済の進展を受け、産官学を挙げてグローバル人材の養成に向けた取り組みが行われている。グローバル人材とは何か？厚生労働省雇用政策研究会(2012)が多くの企業に対してヒアリングを行った結果として、「未知の世界、時に非常に厳しい環境に、『面白そう』『やってみよう』という気持ちで、積極的に飛び込んでいく前向きな気持ち、姿勢・行動力を持っていること。そして、入社後に一皮、二皮剥けるため、『最後までやり抜く』『タフネスさ』があること。しっかりと自分の頭で考え、課題を解決しようとする」とまとめている。これをグローバル人材のあり方と解釈すれば、「国境をまたぐ能力」を身につけ、「アウェーで実力を発揮できる自信」を獲得することを標榜する本学の短期海外研修は、それに向けての“第一歩”としてふさわしいプログラムと言える。

本報告書を見ると、同じプログラムに参加していても、学生たちの目標、経験、成果は一樣ではないことがよくわかる。香港を体験し、中国語を学び、英語も使ってフィールドワークにも取り組んだ意義深い4週間の活動が垣間見られる。そして、研修を通して経験したこと、学んだことを本報告書の作成を通して内省化することにより、一人一人が文化の違いを超えた交流と協働の礎を築くと共に、次へのステップを自覚したに違いない。本報告書の完成は、参加学生にとって「終わり」ではなく、世界で学び、グローバルに活躍するための「始まり」であることを願わずにはいられない。このような魅力的な夏季休暇の過ごし方を、多くの学生にも知ってもらい、ぜひ次の短期海外研修（香港）に参加してもらいたい。

短期海外研修(香港)に寄せて

経済学研究科・国際教育センター兼任 講師 奇 春花

香港で行われるこの短期海外研修は試行錯誤を重ねながら2回目を迎えた。3週間の中国語研修と1週間の英語によるビジネスフィールドワークで構成されているこの研修に、今回は7人の学部生が参加した。

語学力のみではなく、「考動力」や「異文化適応力」の向上を念頭におきながら作られたこの研修の最大の魅力ポイントは、香港中文大学の学生と混成チームを作って行うビジネスフィールドワークである。香港の日系企業から出された課題を、文化背景の異なる人たちと1週間という短い時間内に遂行する為に、資料を調べたり、市場調査を行ったり、英語でディスカッションするなど、協働が求められる。最後は、調べた内容をまとめて企業側に英語でプレゼンテーションをする。フィールドワーク中、コミュニケーションがうまくいかなかった場面もしばしば目にしたが、参加者たちが自分なりに調整し、解決法を模索する姿もあった。そして、困難を乗り越えて安堵する様子や、良いアイデアが出てはしゃいでいる様子も印象に残った。このように失敗と成功体験を繰り返しながら、現在求められているグローバル人材になるための大事な一歩が踏み出せたのではないだろうか。

最後に、香港中文大学の皆様、地球の歩き方 T&E の堀部様、香港で応援して下さった日系企業の皆様、この研修のために尽力して下さった方々に心より感謝を申し上げたい。

参加者プロフィール

文責：辻 宏美

1. 参加者7人って、どんな集団？



- ・性格は七者七様だが、非常に素直で学ぶことにとても意欲的であることが共通点。(田代)
- ・とにかくクセがつよい。(乾)
- ・それぞれ個性が異なりますが、とりあえずみんな香港が大好き！(LE)
- ・なんかまとまってなさそうに見えて、実は仲のいい不思議な集団(筒井)
- ・みんな違ってみんな仲よし♡(平栗)
- ・みんなめっちゃめっちゃだったけど香港愛でつながってたよね(市瀬)
- ・キャラがキャパオーバー。みんなこの集団が大好きすぎる！(辻)

2. 個人紹介

①田代百合子(商学部4年)

- ・かわいい系帰国子女でふんわりオーラをまといつもめちゃうちゃ頭いいという最高スペックの持ち主。コミュ力の鬼。(乾)
- ・私たちを引っ張ってくれる頼もしいリーダー。いつも笑顔で素敵です！(レイ)
- ・たまに抜けてるところがあるけど、全体をひっぱってくれるしっかり者。(筒井)
- ・めっちゃ頼りになって、優しくて、おもしろいみんなのリーダー！わたしもゆりこさんみたいな4年生になりたい♡(平栗)
- ・小さな巨人。底知れないキャパと視野の広さと度量の深さを持つてると思う。(市瀬)
- ・頼れるハイスペックリーダー。こんなに可愛いのに一人で崖も登っちゃう。フットワーク軽いし、めちゃうちゃ楽しいし尊敬。(辻)



②乾恵梨奈（経済学部4年）



- ・彼女の辞書には疲労や退屈という言葉がありません。自分の興味の赴くままにパワフルに突き進むところが魅力です。（田代）
- ・普段は元気でよくふざけるが、課題に関しては真面目で真剣に取り組むギャップがいいです！（レイ）
- ・すごいセンスの持ち主で、明るくて楽しいムードメーカー的な存在。（筒井）
- ・我的姐姐、えりなさん♡ぶっ飛んでいるところも（たくさん？笑）あるけど、そこも含めて大好きです♡（平栗）
- ・遊んでいるようで学んでいて、学んでいるようで遊んでいる。パワフル姉さん。（市瀬）
- ・私に対するいじりが激しいけど凄く面倒見が良い。人のことを良く見ている、褒め上手。実は一番繊細かも。私はえりなさんの弟子だそうです。（辻）

③LE THI AN BINH（法学部4年）

- ・賑やかな他のメンバーをいつも温かく見守ってくれています。マイペースで温厚なところに癒されます。（田代）
- ・物静かでおしとやかだけど、人一倍芯が強い。みんながバカしてるのを優しい目で見守ってくれる。みんなの憧れ。（乾）
- ・すごく穏やかで、かつ自分の意思をしっかりとってる人。（筒井）
- ・4年生であるにも関わらず良い意味で4年生という壁を感じさせない、ほわほわしてて一緒にいると落ち着く先輩♡（平栗）
- ・いつもは穏やかで柔らかい雰囲気。突然、めっちゃ面白い一言を言う。（市瀬）
- ・私の癒し。いつもにこにこだけど、その笑顔のまま、たまにナチュラルに飛び出す毒舌が秀逸。実はめちゃくちゃアクティブ。（辻）



④筒井康太（経済学部3年）



- ・人当たりがよく、誰とでもすぐに仲良くなれる才能の持ち主です。たまに垣間見えるお茶目な一面もまた可愛いです。（田代）
- ・世渡り上手とはまさに彼のためにある言葉。ノリも良ければ気配りもすごくて老若男女国籍問わず誰からも愛される。（乾）
- ・私たちのやさしいサブリーダーです。外国人の女性の学生にすごく人気！（レイ）
- ・おしゃれ系ディズニー男子つつーさん！方向感覚と地図読む能力には本当にお世話になりました！（平栗）
- ・我らが香港研修参加者のなかの酒豪の一角。酒気を纏い、柔和な笑みを振りまく彼の虜となった女性は国籍を問わず後を絶たない。（市瀬）
- ・みんなの頼れるグーグルマップ。世渡り上手、聞き上手。食べ物がおいしかったときはすぐわかる。パクチーが敵。（辻）

⑤平栗歩実（商学部2年）

- ・いつも笑顔で、一目見るだけで安心させてくれる包容力を持っています。兎にも角にも可愛い、私の大好きな推し女子です。（田代）
- ・我的妹妹。どこまででも付いてきてくれる、可愛くて仕方ない妹。おしとやかに見えて実はイケイケ。すぐタクル。（乾）
- ・優しく皆をケアしてくれるお母さんのような存在です！（レイ）
- ・優しいし、現地での悩みを共有できた頼りになる存在。（筒井）
- ・いろんなところで気まぐれな人なんだと思いました。でも、香港を去る時一番悲しそうな表情をしていたのが印象的。（市瀬）
- ・私の安らぎ。みんなのお母さん。美味しいものを食べる瞬間の笑顔が可愛すぎる！優しいし可愛いしたまにぶっとぶし大好き！（辻）



⑥市瀬凜（商学部1年）

- ・物怖じせず何事にも挑戦し、どんな経験も自分の成長の糧とする強さがあります。その勢いと実直さを私も見習いたいです。（田代）
- ・ふらふら一つと現れては消える、神出鬼没ボーイ。大富豪になろうとも、冒険家になろうとも、彼なら納得。（乾）
- ・初めての海外にもかかわらず冒険心に満ち溢れている青年です！（レイ）
- ・予想のつかない行動することもあるけど、やりたい事やってる人。（筒井）
- ・めっちゃまじめで努力家！尊敬します！あんまりしゃべらないので（？）いまだに読めないことが多い！（平栗）
- ・熱い。エビのライスロールを食べたときの笑顔が3歳児。体を動かしていると、いつもの3倍元気。私に対する当たりが強い。（辻）



⑦辻宏美（法学部1年）



- ・最年少とは思えぬ気遣いに脱帽です。人のことをよく見てよく学ぶ、心優しい宏美ちゃんの今後に期待です。（田代）
- ・とにかく真面目。何に対してもストイックに打ち込む姿に尊敬。真面目すぎてダメメンズウォーカーにならないか心配。（乾）
- ・勉強や課題に真面目に取り組みながら積極的に色んな人とコミュニケーションを取りすばらしいです。（レイ）
- ・すごく真面目で、変な方に進まないようにしてくれるしっかり者。（筒井）
- ・最年少とは思えないほどしっかりしてて、でも、時に抜けてるかわいい後輩！もう本当にかたただただかわいい♡（平栗）
- ・研修期間を通してあれだけしっかりした振る舞いをしていたのに、最後にはしっかり全員からいじられる妹キャラを確立した計算高さには脱帽。（市瀬）

香港基本情報

文責：市瀬凜



1) 気候：

夏には連日のように日中は30度を記録する。夜になっても25度を下回することは稀で熱帯夜が続く。一年の中で一番過ごしやすい月は十一月と十二月。気温が下がりすぎることもなく、比較的一年中乾燥している。一月と二月は曇りがちで時折冷たい北風が吹く。三月と四月は時折、湿度がとても高くなり、視界不良を引き起こすが、基本的にとっても過ごしやすい。五月から八月にかけては高温多湿で雷雨を伴う亜熱帯らしい気候になる。特に七月と九月は台風や強烈な熱帯低気圧の影響をよく受ける。年間最低気温が10度を下回することは滅多にない。香港天文台の報告による歴代最低気温は0度。山岳部では氷点下の気温を記録することもある。台風が香港島を直撃する際には、香港気象台から警報が出る。香港市街地への影響がシグナルを用いて表される。シグナル3までは基本的に外出に支障はないが、シグナル8,9,10になると外出が制限され、会社や学校は休みとなり、市内の交通機関やレストラン、小売店は営業をやめる。

2) 地形：中国の南東部の先端に位置する。香港島、九龍半島、新界、262の離島からなる国土を持つ。

3) 位置：アジアのすべての主要市場が4時間の飛行距離内にあり、5時間のフライトの範囲内に世界の人口の半分が住んでいる。香港国際空港からは世界155都市へ直行便が出ている。



4) 社会一般：西洋と東洋をつなぎ、中国と全世界をつなぐハブ地域として位置する。一級のインフラを備え、法規制の元

に治安も安定している。12年間の無償教育を実施。MTR、トラム、二階建てバス、ミニバス、タクシー、フェリー、など公共交通機関は充実している。それゆえ、都市の密集率の割に渋滞が少ない。

5) 宗教：仏教、道教、プロテスタント、カトリック、イスラム教、ヒンドゥー教、シーク教、ユダヤ教

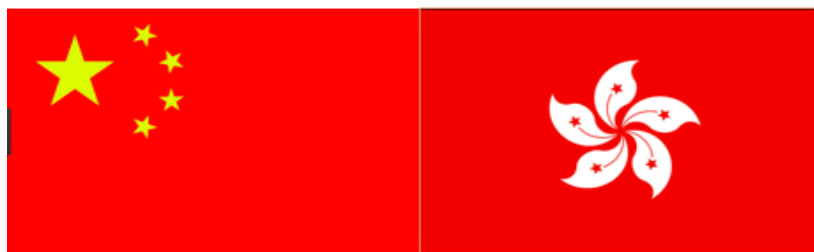
6) 面積：1.104/km²。75%が田園または山岳地帯。都市部は25%以下にとどまる。

7) 人口統計：7,839,500人。人口増加率0.7%。世帯数2,548,000。新生児609,000人。死亡者469,000人。外国人居住者597,000人。人口密度6,540人/km²。労働力人口3,700,000人（うち小売、卸売業、飲食業32%、公務員26%、社会的サービス、金融、保険、不動産業19%、輸送業12%、製造業3%）（数字は2017年中期現在のもの）

8) 言語：公用語は中国語と英語。英語は政府内、法律関係、ビジネスで頻繁に用いられる。日常的には中国語（広東語）が用いられる。

9) 民族：漢民族95%

10) 政治・外交：
97年の返還の過程
で、香港の自由主義
的、民主主義的風潮
が中国共産党によっ
て大きく抑圧される



のではないかとの懸念が蔓延した。その後多くの衝突を経て、一国二制度（社会主義制度と政策を実行せず、従来の資本主義制度と生活方式を50年間維持する）を取っている。また香港特別行政区政府主導でビジネスの発展に力を入れており、ソフトウェアとしての個人の自由の保護、ハードウェアとしてのインフラの充実に努めている。政府による規制の緩さゆえに多くの外国資本が流入している。

11) 対外関係（対日関係）：華道、茶道、日本舞踊、浴衣、着付け等の伝統文化の紹介、日本語能力試験の実施、国費留学生の受け入れ、その他民間の商業ベースではJ-POPコンサートや漫画・アニメーション祭の開催等が行われている。また、スポーツ分野でもサッカー、ラグビー、柔道、相撲を中心に交流がある。

1 2) 経済：

簡素で低率の税制（法人税 16.5%，個人所得税最高税率 15%，キャピタルゲイン・利子非課税）が香港経済の特徴。特徴的な制度的・社会的インフラを基礎として国際金融及び物流の拠点としての地位を築いている。また製造業拠点は 1990 年代前半までに中国本土への移転が進んだ。現在 GDP に占める製造業の割合は約 7.2%。貿易，金融，不動産，観光，流通などのサービス産業が GDP の 90%以上を占めている。

名目 GDP：2 兆 3,971 億香港ドル（3,092 億米ドル）

一人当たり GDP：32 万 8,117 香港ドル（42,327 米ドル）

経済成長率：実質 GDP 成長率 2.4%

物価上昇率：3.0%

失業率：3.3%

通貨：香港ドル



1 3) 国際収支等

輸入 4 兆 464 億香港ドル（5,220 億米ドル）

輸出 3 兆 6,053 億香港ドル（4,651 億米ドル）

輸出入相手国：

輸入 中国（49.0%），台湾（6.8%），日本（6.4%）

輸出 中国（53.7%），米国（9.5%），日本（3.4%）

1 4) 略史

1997 年 7 月の返還直後に発生したアジア金融・経済危機により，1998 年は経済成長がマイナスに転落。さらに 2003 年 3 月，SARS の発生は香港経済全体に大きな打撃を与えた。しかしその後、同年 7 月の中国大陸からの香港個人旅行の解禁や，翌年 1 月に施行された「中国本土・香港経済連携緊密化取決め（CEPA）」などによる本土との経済関係強化によって，香港経済は急速に回復した。

2008 年 9 月以降は，リーマンショックによる世界的な景気後退の影響を受け，同年の GDP 成長率は+2.1%と大きく減速したが，2009 年以降，本土経済の回復・成長に伴い，香港経済も連動して好調を維持した。2011 年からの欧州及び米国経済の低迷や本土経済の減速により，香港経済も成長が減速した。

2014 年以降，本土において，適度な成長減速を受け入れつつ経済構造の転換を図る「新常态」への適応がされていく中，本土の反腐敗活動による小売業への影響や，本土を中心とする旅行客の低迷等により，香港経済は調整局面にある。

香港中文大学 基本情報

文責：市瀬 凜

1. 概要・沿革



中国香港沙田区に本部を置く香港の大学。英語名は The Chinese University of Hong Kong。略称は CUHK。名前の「中文」は中国語と中華文化を表す。大学名は名古屋商科大や東京工業大などと同じ感じで考えるとわかりやすい。1963年、新亜書院(New Asia Collage)、崇基書院(Christian Collage)、

聯合書院(United Collage)が合同して香港中文大学を創設。1986年には逸夫書院(Shaw Collage)が建設され、2011年には晨興書院(Morningside Collage)、善衡書院(S. H. Ho Collage)、敬文書院(C. W. Chu Collage)と和聲書院(Lee Woo Sing Collage)が完成。さらに翌年、伍宜孫書院(Wu Yee Sun Collage)が完成し、現在は合計9つの書院が大学内に存在する。学生は各書院(Collage)と学院(Faculty)に所属する英国式を取っており、米国式の所属形態である香港大学など、他の香港の大学とは異なるシステムを採用している。また香港中文大学のビジネススクールはアジアの中でもかなり古い歴史を持つものであり、大学でのMBAの称号は世界的に有名。香港の中では香港大学、香港科技大学とともに三代有名大学の一つとして数えられ、近年の世界大学ランキングでは常に100位以内に位置付けられている。過去にノーベル物理学賞と経済学賞のそれぞれで受賞者を2人ずつ輩出している。



大学の寮生による新入生歓迎会。手拍子と掛け声を合わせて自分の寮を褒めたたえたり、他の寮を貶したりする。

2. 学部・学生

文学院、工商管理学院、教育学院、工程学院（工学部）、法学院、医学院、理学院、社会科学学院から構成される。計8学部61学系（専攻科目）からなる。文学院には日本研究学科が存在し、約500名の学生が日本の文化を学んでいる。また日本の多くの大学と交換留学の協定を結んでいる。大学の全学生数は20,000人前後である。（参考：立教大：20,000人、早稲田大50,000人、一橋大6,000人）

3. キャンパス・施設

香港特別行政区の新界地区東部、沙田・馬料水の丘陵地帯に広大なキャンパスを有し、キャンパスの広さは香港大学のほぼ2倍。日本でいうと筑波大学と同程度の大きさ。最寄り駅は香港を縦横に走るMTR（Mass Transit Railway）の東鉄線「大学駅」。多くの建物は山の上や中腹にあるので、校内の移動は学生と職員専用の無料バス（校巴）で行われる。また大学の建物は山の斜面の上に立っており、学生は建物のエレベーターを使って移動する。キャンパス内には9つの書院、33の食堂、図書館、プール、スーパー、保健センターなど様々な施設があり、寮生は大学内だけで生活することができる。

多くの食堂は21:00で閉店。スーパーは22:00に閉まる。大学内の運動施設（テニスコート、体育館、陸上トラックなど）は基本的に学生証を提示すればすぐに使える。また、中大の学生一押しの食堂は大学図書館の前の大通りを直進した先にある大きな建物の左手にある食堂。また、プールに隣接する素食（ベジタリアン向けの料理）を出してくれる食堂も好評。タピオカミルクティーを安く飲もうと思ったら、大学の池の隣にある食堂の二階がオススメ。



4. 寮生活



私たちは香港中文大の中でも比較的新しい和聲書院に滞在することになりました。この寮は山の峠を超えた大学駅とは反対側の斜面に位置します。

入寮時に学生証と寮のカードキーをもらいました。寮のセキュリティーは基本的にカードキーで管理され、これが無いと出ることも入ることもできません。で

すが僕のルームメイトはカードを無くしてしまし、クラスメイトはセキュリティーゲートを飛び越えて移動していたので、一部無法地帯となっていました。寮の部屋にはエアコン、冷蔵庫、勉強机、ベッド、クローゼットがあり、日本人の常識からすれば生活するには十分なスペースが確保されています。ルームメイトは他の大学の生徒になるようにセッティングされており、一橋生内で部屋が同じになることはありませんでした。そして、一緒になるルームメイトとは多くの時間を過ごすので、仲良くなるチャンスがたくさんあります。

また、部屋の窓から見える景色には大きな格差があります。寮の部屋は真ん中の廊下を挟んで海側の部屋と山側の部屋に



寮の大きな窓から見える景色。とんでもなく綺麗。

二分されます。海側の部屋になれば、毎日、カーテンの隙間から差す朝日に起こされ、空と海の青と山の森林の緑の美しいコントラストが演出する素晴らしい景色に迎えられ、夜は遠くの沿岸地域の高層ビルやマンションが輝く夜景に別れを告げて就寝するという夢のような三週間を送ることができます。ですが、山側の部屋になると窓からは24時間、寮の隣に生えている木の枝と葉、あとは山の斜面しか見えません。

寮内では朝8時から夜9時まで営業している食堂や山の斜面からのオーシャンビューを楽しめるカフェで食事を楽しむことができます。また大学スーパーで買った食材を使って共用キッチンで自分なりの料理を作ることも可能です。ここではガスコンロ、電気ポット、電子レンジを利用できます。



寮に併設されているカフェテリアから見える景色。とんでもなく綺麗。

トイレ、シャワールームは共用で、一般的なアメニティとトイレットペーパーは完備されていません。ですので、これらは持参する必要があります。また八達通（オクトパスカード）があれば各5ドルで洗濯機と乾燥機を利用できます。寮の部屋で全ての洗濯物を干すのは難しい

ので乾燥機を使うことをお勧めします。地下には朝7時から夜10時まで空いているジムがあり、エアコンの効いたトレーニングルームで体を動かすことができます。寮の北棟にはコンピュータールーム兼自習室がありクラスメイトと一緒に課題を済ませることもありました。これらの施設のおかげで生活は予想以上に快適でした。

ミニコラム①

香港で何を食べたい？「飲茶！」「スイーツ！」「点心！」

…ちょっと待ってください。「飲茶」と「点心」の違い、ご存知ですか？

～飲茶と点心～

飲茶とは読んで字のごとく、お「茶」を「飲」みながら、点心頂くこと。つまり、飲茶のときに食べられている餃子やシュウマイが「点心」なんですね。

ところが、中国語の点心 (dianxin) は、お菓子のことも含みます。私たちが想像するような「点心」は、ほんの一部なんですね。

ちなみに、飲茶は通常午前9時くらいから、15時くらいまで楽しむことができます。逆に言うと、夕ご飯に食べようと思ったのに、提供時間外だった！という事態もあり得ます。事前に調べておくことをお勧めします。



中国語プログラム

CUHK Summer Program August Session 2017 について

- プログラム概要

CUHK Summer Program は、毎年 7 月～8 月に香港中文大学にて行われる下記の短期留学プログラムで、7 月セッションと 8 月セッションの二回に分かれています。香港で二番目に良いとされている香港中文大学へ勉強しに、毎年様々な国からの留学生がやってきます。私たちが参加した 2017 年度 8 月セッションには、7 月セッションの約 1/3 の人数である 100 人前後の留学生が参加しました。

- 授業について

- レベル分け

授業は、事前にオンラインで行われるプレイスメントテストによってレベル別にクラスが振り分けられています。

今回は 4 つのレベルに分かれており、下から順に①ロウワービギナー、②アッパービギナー、③ミドル、④インターミディエートとなっていました。①は人数が多かったため 2 クラスにわかれ、②～④レベルが各 1 クラスと全部で計 5 クラスの構成になっていました。各クラスの人数は 15～25 人前後となっており、コンパクトなクラスで先生との対話が適度にできる人数でした。

- 授業形態

授業は月曜日から金曜日に行われ、午前の部 9:30～12:30 と午後の部 14:30～16:30 に分かれています。各クラスに二人の先生がつき、一人の先生が単語や文法など (Vocabulary & Grammar) を、もう一人の先生が発音や会話文など (Oral) を 1 日ごとに交代で教える形態です。

私が受けていたロウワービギナーの授業では、単語と文法のクラスで、日常生活でよく使う単語 (各人称、基本的な動詞、国・家族構成など自己紹介に使えるような言葉、時間・学校に関するものなど身近でよく使う言葉) の意味と漢字を習い、またそれをどのように使うのかを文法 (文の構成と作り方など) と

ともに勉強しました。そして、その翌日に習った言葉を実際に使うとどういった会話ができるのかを、オーラルの授業でカバーしていました。

基本的に Vocabulary & Grammar / Oral とともに学校支給の教科書に沿って授業が進み、各章が終わると簡単な章末小テストが行われます。また、その日の授業を振り返るための5～15分ほどの宿題があります。しかし、どちらも難易度はそれほど高くなく、授業を聞いていれば点数をしっかりと取れるものでした。

このように私たち初級下段クラスで懇切丁寧に1から教えてもらいましたが、インターミディエートクラスの友人に聞いたところ、彼らのクラスでは中国の文化と他国の文化の比較を行い、自分の意見を中国語で言うことを求められていたようで、レベルによっては高レベルな内容も授業で扱われていたようです。

- 参加していた学生について

香港中文大学は日本の提携大学が多いようで、8月セッションの5割前後が日本人でした。参加している日本人学生は私たち一橋大学の学生を始め、南山大学、京都大学、上智大学、東京大学大学院などの学生が参加しており、同じ国から来ている他校の学生との交流もできました。

日本人以外の残りの5割のうち、3割ほどがヨーロッパからの学生で、イタリア・オランダ・スイス・デンマークなど様々な国から学生が来ていましたが、特にイギリスからの学生が多かったように思います。残りの2割前後を埋める学生は韓国人やインド人、次いでアメリカ人が多く、稀にケープベルデやエクアドルなどから来ている学生もちらほら見受けられました。今まで全く交流のなかった国の学生とも社会や経済の話ができる環境下なのでとても刺激的で新鮮でした。

香港中文大学での私の1日

文責：乾 恵梨奈

7:00 起床

ルームメイトを起こさないようにアラームを速攻で止めて起床。そのまま運動靴を履いてB1のトレーニングルームへ



7:15-8:00 ワークアウト

ランニングマシンやトレーニングマシンなどかなり充実しています。山の上にあるため、眺めも抜群。毎日するのが目標でしたが、達成率は7割ぐらいでした。ワークアウトしない日は8時ごろ起床。

ルームメイトの千尋ちゃん。毎日一緒に過ごす時間が長いので、かなり仲良くなりました。今でも時々連絡を取り合って近況報告する仲です！

8:00-8:30 シャワー

シャワーとトイレは各階に4個ずつ付いています。朝のこの時間は少し混みますが、夜ほどではないように感じました。着替えなどを置く場所がないので、私はオリエンテーションでもらった手提げをシャワーバックにして着替えなどをに入れてフックにかけていました。



8:30-8:45 朝食

偶数階にキッチンが設置されてあったので、トーストやカップヌードルを食べている人もいました。私はコーンフレークを購入し、牛乳は自室の冷蔵庫で保管し、洗い物の時だけキッチンを利用しました。共同の食器は衛生的に心配という方は、日本の100均などで調達していくことをオススメします。ペットボトル飲料も意外と高いので、水筒を持っていくと良いでしょう。

を眺めながら運動するとすがすがしい気持ちになりますよ～。

8:45-9:00 準備(メイク、荷造り)

机が大きいので、広々とメイクができます。私の勉強机は化粧台と化していました。日差しが強いので、露出している部分はしっかりと日焼け止めを塗ることをオススメします。また、朝の時間帯は蚊がたくさんいるので、刺されやすい人は虫除けスプレーをつけると思います。

オーラルとライティングの授業が毎日交互で行われるため、教科書を間違えないように気をつけましょう。もう片方の授業に役立つこともあるので、毎日2冊持っていくのもいいと思います。



化粧台と化した机。大きいのでとっても便利！
使い方は多種多様。笑

9:00 徒歩で登校

大半の人はバスで教室に向かいますが、私はダイエットがてら歩きで登校していました。直通のバスは1日1本しかなく、他のバスは遠回りのルートになってしまうため、バスで行く時間とさほど変わりません。近道(渡り廊下がある建物に行くルートで、現地の学生たちが教えてくれます)で行けば、20分くらいです。毎日一緒に話しながら登校した他大の友達とはとても仲良くなれました！



登校バディのナナちゃん。
毎日いろいろな話に花を咲かせました。今では大親友♡

9:30-12:15 午前の授業

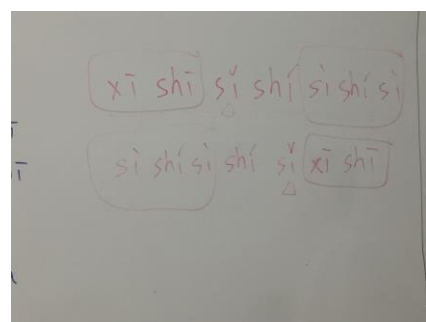
私たちのクラスは午前は普通の教室、午後はパソコンの置いてある教室で授業を行いました。ライティングとオーラルのクラスが毎日交互で行われました。

ライティングの授業では英語を交えて中国語の文法を学習しました。日本語話者は普段から漢字に慣れているため、他の国の生徒と比べてかなり有利に感じました。しかし、日本語とは微妙に異なる漢字も多く、細かい注意が必要でした。文法は分かりやすく解説してくれます。先生の英語はとても流暢なので、解説も問題なく理解できました。英語で語学のクラスを受けたことがない人は基本的な文法事項に関する英単語を覚えておくと思いがより分かりやすいと思います。漢字に慣れている日本人は、ライティングの授業よりもオーラルの授業を難しく感じていたと思います。



みんな大好き、ライティングの王先生の最後のディナーではみんな一緒に写真が撮りたくて、ミッキー並みの行列が。

オーラルの授業では、中国語を中心に会話練習を行います。授業中の指示(教科書を開いたり等)も中国語で初めは少し戸惑いますが、先生がゆっくり繰り返し言うので徐々に分かっていきます。2-3回繰り返した後に英語でも説明をしてくれます。中国語の発音はピンインという日本語で言うローマ字のようなもので全て表すことができます。このピンインですが、漢字の読みが日本語と全く異なる上に四声という発音システムがあり、私が中国語で最も難しく感じたポイントでした。日本語に慣れていると漢字の意味が何となく理解できる分どうしても視覚的情報に頼ってしまうため、文章を読んでも発音に注意が向きにくく感じました。ノートを取るときにあえて全てピンインで書くことにしたら、少し改善できたように思います。ただ、先生の話によると、四声はどんどん話をしていくうちに自然と身に着くとのことで、そこまでストレスに思うことはないとのアドバイスを受けました。



中国語の早口言葉。ししししし、、、んんっ！中国語って難しい！

12 : 15-14 : 30 お昼休み

お昼休みは2時間以上と長く、それぞれが思い思いの時間を過ごしていました。一度宿舎に帰って昼寝をしたり、電車を使って出かけたりしている人もいました。

私はせっかく大学内に綺麗な50mプールがあったので、毎日泳ぎに行きました。プールは午前の部は13時30分まで営業しているので、授業が終わってから歩いてプールに行っても1時間ほど泳げました。入場券は1枚5ドル(約70円)または12枚50ドルです。それほど天気が悪く見えなくても台風注意報が発動すると営業中止になってしまいます。

昼食はプールの近くにあるベジタリアンの食堂でとっていました。1食22ドル(約300円)でおなかいっぱい食べられました。



↑元水泳部の私にとっては天国のようなプール。唯一の弱点はフラッグがないから背泳ぎで頭をぶつけがち。



14 : 30-16 : 15 午後の授業

私たちのクラスは午後のクラスはパソコンのある教室で行いました。基本的には午前中の授業と似た内容ですが、パソコンを活用して、リスニングや映像を使った学習も行われました。ライティングのクラスでは、所要時間10分ほどのプリント課題、オーラルのクラスでは所要時間20分ほどのオンラインでやるリスニング課題が毎回でした。

ある日のランチ。午後の集中度はご飯の美味しさに比例する。

課題やプログラムの最後に行われるテストの難易度はさほど難しくなかったように思えます。しかし、授業から多くを得てより高い到達度に達したいのであれば、課題以外にも自主的に学習する必要があるように思いました。先生方は、とても親切で、授業では取り扱っていない範囲の質問にも丁寧に答えてくれた他、学習する上でのアドバイスもくれました。ライティング、オーラルの先生はどちらも素晴らしく、これから中国語を継続して学習していく自信をつけてくれました。

16:15 放課後

放課後は昼休みと同じく人それぞれ思い思いの時間を過ごしていました。授業がある建物が駅に近いため、そのまま市内へ繰り出す人が多かったように思います。私も、ほとんどの日は電車を使って様々なところへ出かけました。特にお気に入りには旺角でした。旺角駅ではなく東旺角駅を使用すると大学駅から乗り換えなしで行けるので便利です。電車はオクトパスを購入するととても便利です。

駅から宿舎は歩くと30分ほどかかります。駅から宿舎へのバスは12時前に終わってしまいます。歩いてもいいのですが、私は夜道は人気がなく怖かったので、よくタクシーを利用していました。タクシー乗り場は大学の反対口にあり、宿舎までは35ドル（約500円）ほどで帰れます。それよりも大幅に請求されたらぼられているので、宿舎の受付の人に助けを求めましょう。宿舎の看板の写真を撮っておき、運転手に見せると便利です。



入口にある宿舎のサイン。これを写メっておくといいよ、ってタクシーのおちゃんが教えてくれた。



↑みんなでそろいのCUHKシャツ。いいパジャマになります。

ビジネスフィールドワーク

1.1. Aチーム・PLUS+

文責：田代 百合子

私たちが PLUS+からもらった課題は、香港におけるテープのりの売り上げを伸ばす方法を考えなさい、というものでした。私は香港へ渡航する前に PLUS+のオフィスに伺って、PLUS+の理念・アジア市場進出にける思い・テープのりがどのようにして生まれたか、などの話を社員の方々から直接聞いていました。故に PLUS+の課題に取り組むにあたって PLUS+社員の方々の考えを汲み、実際に行いやすい具体的な施策に落としこみたいという思いで考えました。

私たちのグループは5人と比較的少人数であったこと、それぞれの強みが分散していそうだと、ということが顔合わせの段階で既になんとなくわかっていたことなどから、課題ごとにメンバーを分けるのではなく、自然に全員で各課題に取り組む流れになっていました。そして二つの課題に取り組むうえで、PLUS+の方が時間がかかりそうなので、香港旅行者に関する課題よりも先に取り組み、リサーチ方法や方向性をじっくりと考えてからスケジュールを決めようと考えました。今回の報告では、どのような進め方をしたのか、順を追って説明したいと思います。

● ボトルネックの選定

私たちがまず取り組んだのは、「何がテープのりの購買を妨げているのか」すなわち「ボトルネックがどこにあるのか」の仮説を立てる議論です。テープのりが製造されてから顧客の手に届くまでの流れを想像し、その中で流れが止まる、あるいはスムーズにいかなくなる可能性がある部分はどこかをみんなで話し合いながら挙げていきました。そして挙げたいくつものボトルネックの可能性をながめ、そのうち大きな要因となっていそうなものとして「流通に使っている小売店がターゲットユーザーに適應していない」「小売店のディスプレイの仕方などが適切でない」「プロダクトの用途がユーザーに知られていない」の3つの仮説を立てました。

● フィールドリサーチ

ボトルネックとして挙げてきた3つの仮説のどれを検証するにしても、フィールドリサーチが必要であるという結論に達した私たちは、街中で調査を行う組と郊外で調査を行う組のふた組に分かれて調査を開始しました。

各組は事前に話し合った地域をまわり、それぞれ3つの調査を主に行いました。1つ目は店側に小売店の情報や、テープのりなどについてヒアリングをするというもので、「小売店のメインターゲット層とテープのりを購入した顧客ターゲット層が一致しているか」「スティックのり・液体のりと比較して売り上げはどうか」などの質問をしました。2つ目はのりの購買者にヒアリングをし、「のりをどういった用途に使うのか」「テープのりという商品を知っているか」などを調査します。そして3つ目はヒアリングではなく、文具店などに10~20分ほど居て、顧客の購買行動や小売店の状況を観察し、定量的・定性的な情報（どれくらい顧客がきているか、滞在時間はどれくらいか、年代や性別は、誰ときているかなど）を調べるというものです。

● 分析・考察

フィールドリサーチの結果をまとめたエクセルシートの一部

1日半ほどかけて行ったフィールドリサーチの甲斐があり、調査後にそれぞれの組の調査内容を共有した時には面白い気づきがいくつも得られました。異なる切り口から調査内容を分析した結果、私たちが妥当ではないかと考えた最終的なボトルネックは、「テープのりの認知度が低い」「顧客はテープのりの使い方を理解していない」「顧客はテープのり及びのりを使用する機会がない」の3つであり、それらは相互に相関している可能性があると考えました。

● 提案内容

ここまできてようやく、提案内容について考える段階にたどり着きます。私たちはそれぞれのボトルネックに対して最も効果的な施策を提案したい気持ちはもちろんありましたが、一方で私個人としては、他のグループもきっと同じ部分に対する施策を打ってくるであろうことから、重複しないような面白みのある施策を考えたいという思いもありました。そこで、それぞれ3つのボトルネックに対して、以下のような施策を提案しました。

1. テープのりの認知度が低い→デジタルサイネージを使用したマーケティング

デジタルサイネージとは、店頭などに置いてあるタブレットのことです。動画を再生したり、商品についての情報を提供するために顧客に操作してもらったりすることが目的になっています。日本ではLOFTを始めとする雑貨の小売店などで、美容グッズや一風変わったデザイングッズの使い方を説明するために用いられることが多いですが、香港では全くと言っていいほどこのマーケティング方法は普及していませんでした。そこで、電子タブレットをいち早く導入してマーケティングを行うということで店舗にいる顧客の注目を存分に引きつけることができ、またパッケージの説明書きだけでは使い方がわかりにくいテープのりをどのように使うのか、動画でわかりやすく訴求できるようにすれば良いと考えたのです。

2. 顧客はテープのりの使い方を理解していない→ポップアップストアの設置

ポップアップストアとは、小売店が商材の認知度を上げたり、使用を促したりするために一時的に設置する臨時の体験ブースです。テープのりは、使い方を知っていても、実際に使うまではなかなか使いやすさを実感することが難しい商材だと考えたため、一度でも顧客が手にとってくれる機会を作れるように提案しました。

3. 顧客はテープのり及びのりを使用する機会がない→SNSを使ったのり利用シーンの訴求

3つ目のボトルネックの仮説は、様々なものがデジタル化した近年では、のりを使用するシーンが以前よりも少なくなっているのではないかという前提に基づいていました。なので、のりを使いたいな、さらにその中でもテープのりを利用すると便利だな、と思えるようなのりの使用シーンの例をSNSで提案していくのはどうかという考えから、この提案に行き着きました。具体的には、「記念日や卒業などのイベント時にスクラップブックを作成する」といったシチュエーションを想定し、その場合テープのりを使用すると便利である、というメッセージを込めた動画をInstagramなどで配信することが効果的だと考えました。

進めている間は、かなりスケジュールが詰まっていたり、議論が行き詰まった時の打開策がわからなかったりと難しい時もありましたが、終了後に改めて振り返ると、英語でビジネスについて議論できたことや、海外の学生と協働するという経験は大変貴重なものであったと感じます。学びが多く、充実した有意義な1週間となりました。

1.2. A チーム・HIS

文責：筒井 康太

課題の内容は、「日本人のリピーター観光客を増やせるような、1日のオプションツアーを組み立てる」というものでした。香港政府観光局の統計によると、2015年に香港を訪れた日本人と韓国人のうち、それ以前に香港に来たことのある人は約半数で、他地域に比べるとかなり少ない数字でした。

Aグループが最初の日に決めたことは

- ・ターゲットは18～29歳の日本人
- ・旅行者が興味を持ってくれそうな場所を探す

ことでした。調査方法としては、

- ・Mong Kok や Causeway Bay で、香港人に地元民しか知らない場所を聞く
- ・日本人観光客に、どのようなプランで来ているかを聞く
- ・日本人観光客に、また来るとしたら何がしたいかを聞く

というインタビュー形式でした。

そこで、私たちのグループは二手に分かれて調査を行いました。一つ目のグループ（香港人グループ）は広東語を話せるため、香港人にインタビューを行い、もう一方のグループ（日本人グループ）は香港旅行中の日本人にアンケートを行い、日本にいる人が香港のどのような観光地に魅力を感じるかを調査しました。

その結果、好みによるパッケージを組み立てました。たとえば、動物好きな人であれば、サル山でハイキングをしたり、ラビットカフェに行ったりするようなプランを提案できます。また香港の夜景を活かしたヨットツアーなども提案しました。そして、私たちのグループでは、そのようなツアーを複数組み合わせ、一日のツアーを組み立ててもらおうような提案も行いました。



Group Aのメンバーと、コーディネーターの堀部さん

2.1. B チーム・PLUS+

文責： レイ (LE THI AN BINH)

私たちは今回欧州エクスプレスとプラスから二つの課題を与えられました。学生は三つのグループに分けられ、自分たちはグループBでした。一日目はグループ内でディスカッションを行い、5日間という短い時間で全員が二つの課題を取り組むより、3人が欧州エクスプレスの課題を、他の3人がプラスの課題を調査して発表したほうが効率的だと思いましたので、さらにグループB内で二つのグループに分けました。それで私はプラスから、「どうやったら香港でプラスのグルーテープの売り上げを上げられるのか」という課題を二人の中文大学の学生と取り組みました。「どうやって上げる」という質問に対して、製品 (Products)、価格 (Price)、流通 (Place)、プロモーション (Promotion) というマーケティングを構成するそれぞれの4つの要素で、具体的な解決策を提案しました。発表はマーケティングプランの形式で、始まる前に聞き手の方にお菓子を差し上げたり、終わる時はスローガンを言ったり、できるだけ楽しく明るい雰囲気を作るように努力しました。結果的に無事に終わりましたが、振り返ってみると二つの反省点があると思います。

まず、最後の一週間だけではなく、日本にいる時からもっと積極的に課題を考えたほうがよかったということです。今回はプラスのグルーテープについて市場調査を行いました。日本市場と比較する必要が多少ありました。そこで日本にいる間、プラスのグルーの各商品がどこで売られているか、店のどこにおいてあるかをもう少し観察して写真やノートなどを準備すればいいなと思いました。香港にいる最初の三週間も、書店やスーパーマーケットに行った際、意識してプラスの商品を探し、写真などを撮っておくだけでも最後のフィールドワークではよりいい情報が集められたのではないかと反省しました。

また、グループワークに対するスキルをもっと身に付ければよかったと思います。例えば、最初のグループディスカッションで私はほかのメンバーと意見がぶつかってしまいました。話して解決できたならよかったのですが、私たちのグループはリーダー的な人がなくて、言語の壁もあるため、結局解決できずストレスが若干溜まりました。そのため、もしこれからまたグループワークで対立の意見があったなら、だまってやり続けるよりもっと積極的に両方が納得できるように、解決できるように努力しないといけないと思いました。また、中文大学の学生はパワーポイントやパソコンの扱いがうまく、自分ももっとスキルを磨いてプレゼンテーションでうまく活用できるように頑張らないといけないと思いました。

以上、私の反省点でした。私の経験からこれからこの研修プログラムに参加する方々が少しでも参考にいただければ幸いです。このフィールドワークは5日という短い期間でしたが、コミュニケーション能力とグループワーク能力についていろいろ勉強になりました。また、ビジネスの知識もたくさん得られて本当に有意義な時間でした。インテンシブで

疲れる時もありましたが、全体的に楽しく充実した5日間でした。



私たちのグループBです！

ミニコラム②

①は、点心と飲茶についての豆知識でした。それでは、実際に点心を食べに行くなら？

～おすすめの點心専門店～

広東語では點心を dim sum (ディムサム)と発音します。他の国からの学生は、ディムサムと言っていましたね。ここでは、おすすめのお店を2つご紹介します。

①Dim Dim Sum (點點心點心専門店)

香港内外のアワードなどで高く評価されている、とても有名なお店があります。日本語読みだと、“てんてんしんてんしんせんもんでん”。可愛くないですか？(笑)

②One Dim Sum (一點心)

広東語では、ヤッディムサムと発音します。私たちが泊まったホテルはモンコックにありましたが、近くの太子という地域にあります。メニューの日本語も面白いので必見。(笑) ミニコラム③でご紹介します。



①写真のえびの揚げ餃子が絶品。お茶はマグカップで。



②写っていない、ワサビマヨ系の揚げ餃子がおすすめ。

2.2. B チーム・HIS

文責：市瀬 凜

私たちに与えられた課題は「来港する日本人リピーターを増やすためのツアーを考えろ」ということでした。最初の議論であまり出口の見えなかった私たちはとにかく調査を行なって資料を作り、そこに私たちの経験を付け加えてどうにか形にしようとしていました。サンプルを集めるために SNS や Google のアンケート機能を利用して夜遅くまで資料を作り、日本人観光客が多く集まりそうなところを奔走しました。結果としてかなり付け焼き刃的ではありますがなんとかプレゼンテーションを完遂することができました。内容に目を伏せて言えば、私は海外の学生とともに市場調査をし、英語で 15 分のプレゼンテーションを行いました。この経験は私の中で将来に渡って自信になると思います。しかしその一方で私の中で反省すべき点は数え切れないほど多くあるので、ここではそのうちの主要なものを書きます。

● 語学的側面における課題。

今回のフィールドワークにおいて、意図された課題というのが語学的な問題だと思いません。そして自分もその例に漏れず、語学的な問題の餌食になりました。この問題について自分が言えることは 2 つあります。1 つ目は自分の抽象的思考力とそれを伝える英語との間にかかなり長い距離があること。2 つ目は自分の中では伝えたつもりになっていても、それを明確に相手と共有することは難しく、自分の言葉を受け取る相手とそこから出てくるアウトプットにかかなりのギャップがあるということです。

まず 1 つ目に、私は日本人であるのであらゆる思考が日本語で進んでいると言えますが、それを英語で伝える際にかかなり難がありました。自分がたどった論理が正確に英語で伝えられない。対応する表現が見つからない。簡単に言い換えると少しニュアンスが違ってしまふ。このような不安があり（そしてその不安は度々現実となり）、自分の考えを即座に、正確に CUHK の学生に伝えることができず、そのまま議論が進んでしまうことがありました。そしてそのような状況で自分の意見を伝えることで話が戻ってしまうもどかしさを感じることも多々ありました。

また私の英語は往々にして日本語の上澄みでしかないので、考えたこと全てを伝え切ることもできず、断片的な情報を相手に提供するのみでかなり理解に時間をかけさせてしまうこともありました。さらに自宅に帰った後に作る資料を頼む際も、自分では英語でイメージを伝えることがやっとなで、私の言いたいことを言い切ったら、勝手に伝わっただろう

と思い込んでしまうこともありました。当然翌日には、私が抱いていたイメージとは違うアウトプットが出てきてしまい、時間の都合上、部分的な修正を施すのみで付け焼き刃的なクオリティーで次の作業に進まざるをえないことが何度かありました。そしてこれは私も犯したミスであり、日をまたいで夜中に仕上げた資料が翌日に「これって言っていたものと違うよね？」と言われることもありました。

- 精神的側面における課題。

2つ目は日本人であればよく言われることですが、精神的側面に関する問題です。上記の問題に加えて、結果的には私の中には伝えようという意思が基本的に欠如していたと思います。自分の考え方を明確に言葉にできていなくても、見たところ CUHK の学生は理解しているような態度をとってくれている。もしかしたら私の言いたいことは伝わっているのかもしれない。同じような小さな失敗をすでに犯しているにもかかわらず、またしても私は二の轍を踏みます。なんとなくわかってくれるだろう、相手も空気を読んで自分の伝えたいことを汲み取ってくれるだろう。日本人の大好きな以心伝心です。この場合は単なる怠惰としか取られないですが、事実に基づかない楽観視と意味不明な以心伝心に甘んじて築きあげられた幻想はあっけなく崩れ去ります。資料をみて初めて、自分の言っていること、相手が言おうとしていることが伝わっていなかったということに自覚するに至ります。これに比べて他国からきた学生たちはたとえ自分の英語力が十分でないとしても、言葉を変え、ジェスチャーを変え、明確に自分の言いたいことを伝えようという意思を持っていたことが印象的でした。よくよく考えれば、私が考える問題で比喻を使う時にはかなり文化のうちで共有されたことを多用していることにも気がつきました。日本の中では私も相手の日本人もかなり体験を共有しているものを比喻に利用しますが、それがこのような場では通用しないということです。これは上記した、イメージを伝える際にも障壁となる点だと思います。

- その両者に対する解決策。

「英語力を鍛える」。この両者ともに当てはまり、急所を捉え、問題を根本から解決する可能性を持ち、それでいて単純。私の反省がこの七文字によって一網打尽に解決されてしまうことに虚しささえ覚えますがそれが全てだと思います。ここにおける英語力というのは主に、他者に対して自分の考え方を共有するという行為全般を指します。話すことや書くことに限らず、ボディランゲージを駆使したり、図を使ったり、スマホを利用したり。ただ、ここで唯一私が私の英語学習に独自性を見出すとしたら、できるだけ日本語を大切にしながら英語学習を行おうと決めているということです。どんなに英語に達者になろう

としても私の母国語は日本語です。私の抽象的な思考は日本語で行うことで一番確実に、迅速に、正確に、深部に到達できると信じているからです。さらに口にしなければ自分が思っていることは決して伝わりません。伝わっていないという感覚は英語でも日本語でも、起こりうることであり、両者に共通した対処ができると思います。まずは日本語における考え方を洗練し、伝えるということを含めて考え、英語はできるだけ相手の考え方を共有し、自分の考え方を共有することに注力したいと思います。

● 最後に

このレポートで一貫して私が主張していることは、この研修の意義がかなり身体性を伴っているということ。考察として述べられていることは必ずどこかで述べられていることであり、誰もが見たことのある表現だと思います。しかし今、私はそれらの言葉に身体性を感じ、自らの経験に直接関わるものとして捉え、自分の言葉としてこのレポートを書き続けています。おそらくいま私は何かを読むということ、わかるということ、何かが伝わったということがどういうことかを本当に理解しようとしているのだと思います。そして、言葉と身体がより結びつき、自分の言葉の力が芽生える過程を学ぼうとしています。そしてそれこそがこの研修の大きな意味であると思います。

3.1. C チーム・PLUS+

文責：平栗 歩実

まず、私たちはフィールドワークに出る前に、ターゲティングを行いました。私たちのターゲットは「高校生と大学生」。これはのりを使う多くの人が学生であり、テープのりの値段と機能面に注目して、この層が一番使うのではないかと考えたからです。

そして、実際に街に出たアンケート調査とオンライン上でのアンケート調査を実施しました。街頭アンケート、オンラインアンケート合計で約70もの回答を集めることができました。また、この香港の学生へのアンケートと並行して、日本の学生にものりについてのアンケート調査も行いました。これら2つのアンケート調査から、日本と香港との文化の差を感じ、今回の課題解決のポイントとなる2点が浮かび上がってきました。一つ目は、香港の学生は日本人の学生と比べてのりを使う機会が圧倒的に少ないということです。日本人の学生は中高生のときに特に女の子の間に「きれいなノート」をつくることが一種の文化となっており、配布されたプリントや教科書を切り貼りして自分なりのノートを作ることが多いです。それに対して、香港の学生はのりを使う機会はほとんどなく、使うときといえば工作をするときぐらいであるということが分かりました。二つ目は、テープのりに対して抱いている価値観の違いです。アンケートの結果を比べてわかったことは、香港の学生は「テープのりは他ののり製品と比べて高く、わざわざテープのりを買わないだろう」と多くの人が答えたのに対し、日本の学生は「値段は高いと感じるがそれでも買うだろう」と回答した人が多かったということです。この理由を考えたときに、やはり香港ではテープのりの知名度が低く、利点が認知されていないからではないかと考えました。

そこで、私たちはプロモーションに重点を置くという方向でビジネスプランを練り、以下の四つを最終的に提案しました。

一つ目は「パッケージに中国語（広東語）表記を増やすこと」です。実際に文房具店などに立ち寄り PLUS 社が販売しているテープのりを見たところ、日本で売っているものと全く同じパッケージを用いていることがわかりました。そして、どこにも「のりである」という中国語または広東語の表記がなくこれでは修正テープと間違えてしまうことも少なくないであろうということに気が付いたからです。二つ目は「SNS とコラボしてより宣伝していくこと」です。これは若者の間では SNS などがテレビの広告などよりも効果があるだろうと考えたからです。具体的にはユーチューバーとのコラボなど考えました。三つ目は「学生団体のスポンサーとなること」です。これはのりをあまり使わないという香港の学生の中でも最も使うであろう「オリエンテーション期間」に着目したものです。オリエンテーション期間

とは香港の大学生が大学の入学時期に合わせて行う新歓期の中で、多くの団体が看板やポスターを手作りします。そこで、この時期にスポンサーとしてテープのりを提供することで、テープのりを実際に使って知ってもらい、知名度の向上につなげることができるであろうと考えたからです。四つ目は、「他の PLUS の商品とともに売り出すこと」です。三つ目の案と似ていますが、テープのりの利点を知ってもらうためには、まずは使ってもらうのが一番だろうと考え、修正テープとセットにして売り出すなど買ってもらいやすい状況を作ろうという考えから出たものです。

結果として優秀賞をいただくことはできませんでしたが、この課題はシンプルに見えて奥の深い、とても取り組みがいのある課題でした。また、ビジネスプランを立てること以外にも、これを通じて、日本と香港の文化の違いを感じるなど多くのことを学ぶことができました。

最後に、このような貴重な機会を提供して下さった PLUS 様に感謝いたします。

ミニコラム③

香港の町を歩いていると、日本語が目に入ります。でも、よく見ると…。あれ、ちょっとおかしくない？

～面白い日本語～



ライスロールは、典型的な醤油に浸しました…？（一點心メニュー）

スーパーには日本のお菓子が沢山。MTR のホームには日本製品のポスター。レストランには日本語のメニュー。ところが、この日本語たち（？）少し様子がおかしいのです。（もっと面白いものもありました）



満たされたビスケット…？

3.2. Cチーム・HIS

文責：乾 恵梨奈

欧州エクスプレスから私たちに与えられた課題は、「再び香港を訪れたいと思うようなツアープランの提案」でした。この課題に対する最適解を探し出すため、私たちは以下の手順でフィールドワークを進めました。

① 現状調査と問題分析

私たちはまず、香港への日本人観光者数やリピーター率など香港の対日本人観光業に関する基本情報をインターネットで調査しました。結果、香港は日本からの旅行先として上位にあげられるものの、リピーター率が少ないという現状にあることを確認しました。



空港でのインタビューwith あゆみ

② 原因の解明

「リピーター率の低さ」の原因はどこにあるのかを調査するため、既に香港を観光したことがある人を対象に空港でのインタビューや、オンラインアンケートを行いました。結果、定番の観光地以外の観光スポットの認知度が低く、2度目以降となると台湾や東南アジアなどのライバル国に負けてしまう傾向にあることが分かりました。

③ 解決方法の考案

私たちは課題を以下の3つの要素に分解し、調査で判明したことを基にそれぞれに対応するような解決策を考えました。

- ・「再び」（リピーター率の向上させる必要性）

解決策：認知度が低い観光スポットやイベントの提案

- ・「香港」（他のライバル国ではなく香港を選択してもらう必要性）

解決策：香港でしか行けない/できないことの提案

- ・「ツアー」（個人旅行ではなく、ツアーを選択してもらう必要性）

解決策：個人旅行ではできない、ツアーならではの提案

④ 具体案の考案と最終案の選定

3点の解決策を盛り込んだツアープランをメンバーそれぞれが考え、20以上のプランを考案しました。また、オンラインアンケートを行い、人気の高い分野を調査しました。結果を基に人気の高かったスポットやコンセプトを組み合わせ、最終案を練っていきましました。私たちが最終案を決定するにあたって気を付けたことは以下の点です。

・ターゲットとコンセプトがはっきりしていること

課題がオプションツアーの考案であり、顧客は代表的な観光地をめぐった人々である。そのため、それぞれのコアな興味を引き付けるものを数多く用意した方が参加につながると思ったために、ターゲットとコンセプトをはっきりさせる必要があると考えた。1つの分かりやすいテーマを軸にしてツアーを組み立てた。

・実現性があること

たくさんの方の手を借りて行う貴重なフィールドワークなので、実際に欧州エクスプレスで採用してもらえるほどの案に仕上げたかった。そのためには実現可能であることが重要であり、移動時間の正確性などに気を配った。

⑤ 最終案の発表



最終プレゼン後、TeamCみんなで

香港中文大学にて、調査内容と併せて以下の最終案を発表しました。結果、欧州エクスプレス様より優秀賞をいただくことができました。

- ・「香港の文化を知る！見る！聞く！体験するツアー」
- ・「大都市香港の知られざる大自然をめぐるツアー」
- ・「チャイナドレスでめぐる！香港女子力向上ツアー」

<個人的な感想>

私は現在4年生で、来春に就職を控えていますが、今回のフィールドワークを経て、社

会人として一步早いスタートが切れたと思います。初歩的なものではあると思いますが、実際に国際舞台で仕事をするにあたって必要なスキルや気を付けるべきポイントを吸収することができました。

私たち TeamC の強みは「目標が共有できていたこと」「効率のよさ」「行動力」であると思います。言葉の壁から課題認識にギャップが生じていたことに初期の段階で気が付き、しっかりとお互いが理解できていることを確認することの大切さを学びました。そこで、基本的な認識や目標を共有できたことが良かったと思います。また、たまたま性格が似ている人たちが集まったことも手伝ったのかもしれませんが、私たちのグループは効率性を重視し、内容を充実させつつ短時間でやるべきことを終わらせることに長けていたと思います。効率化のため（インタビューを行う言語が異なるため）インタビュー班を日本人と香港人で分けたことは賛否両論あったと思いますが、その後の共有もしっかりできていたため、結果的には成功だったと思います。そして、考えるよりも足を運ぶことを重視し、活発的に行動しました。これらの強みが、欧州エクスプレス様からの優秀賞につながったと思います。

一方、TeamC の弱みは、ロジックの組み立てにあったと思います。多くのグループが同じような提案をした PLUS の課題については、原因分析や解決方法の裏付けといった部分にフォーカスが行きました。私たちのグループはミーティングに費やした時間が少なく、ロジックの組み立てに詰めが甘さがあったと感じました。

私のフィールドワークに対する個人的な目標は「とにかく楽しむこと」でした。もちろん、良いプレゼンをすることが大前提ですが、せっかく香港にいるので、ただのフィールドワークではなく、香港の最後の1週間を満喫できるフィールドワークにしたかったのです。その目標は大いに達成できたと思います。中間報告では満喫しすぎていて先生方をひやひやさせたかもしれませんが、やるべきことをやるときはしっかりと切り替えてできたように思えます。また、楽しみながらやったことが大いに提案に役立った場面も多々ありました。チームのみんなにたくさん支えられましたが、私も「発想力」と「英語力」の点からチームへ貢献できたと思います。特に、ツアープランを提案したり、プレゼン時におそろいのTシャツを着ることを提案したり、英語が苦手なメンバーをフォローしたりといった場面で自分の強みが生きました。他の優秀なメンバーと過ごすうちに、改善しなくてはいけない自分の弱みも多く発見しました。

今回のフィールドワークを通して、グローバルな環境で何かを成し遂げることの面白さを痛感し、改めて国際舞台で仕事がしたいと思いました。以前はそういったことに挑戦をする自信を持っていませんでしたが、優秀賞をいただいたことや、堀部さんからいただいた言葉が自信につながりました。このフィールドワークで学んだことを忘れず、「Work hard, Play hard.」をモットーに国際的に活躍できるような人材に必ず成長したいです。

今回の経験は私の人生に大きな影響を与えてくれました。TeamCのみんな、本当にありがとうございます。多謝。プログラムのために協力いただいたたくさんの方々、本当にありがとうございました。



修了証書をいただきました！

香港・マカオ・深セン観光

香港編

文責：レイ (LE THI AN BINH)

1. タイポーマーケット(大埔墟)

大学駅から地下鉄で1駅の大埔墟駅には大きな市場（広東語では街市）があり、授業が終わった後にクラスメイトと一緒に行きました。

タイポーマーケットはローカルな街市の中で結構有名で、特にここの野菜が新鮮で人気だそうです。場所は駅のすぐ近くで、外観は大きいスーパーマーケットという雰囲気ですが、入ってみると本当にローカルで伝統的なマーケットであることが分かります。地上階は魚や肉類が、2階は野菜や冷凍品などがあり、3階はフードコートになっています。魚などがまだ生きていて色々な意味であまりにも新鮮だったので、皆盛り上がりました。地元の人ばかりで観光客がほとんどいなかったためローカル感がさらに増します。フードコートもありますが、外国人にとっては注文が中々難しいので、香港中文大学の友達と一緒にいった方がいいかもしれません！



新鮮な海鮮と果物（ドリアン）！ 見るだけで楽しいです！

2. 沙田



沙田には巨大なショッピングモールがあり、買い物ならブランド品や服から食品、お土産まで何でもあります。そして週末だと人が多く、中国本土からの人も結構見られます。

また、レストランやカフェのお店もあり、ショッピングの後にのんびりして休憩することもできます。ビジネスフィールドワークで同じグループのCUHKの学生たちと初

めてご飯を一緒に食べる時も沙田にあるヌードルのお店でした。大学駅から2駅だけなの

で大変便利です。さらに、ショッピングモールを出てみるとスノーピーワールドという遊園地もあり、本当に可愛いです！しかも無料なのでキャラクターや写真が好きな人にはオススメです！

3. コーズウェイベイ

コースウェイベイには、日本の百貨店 SOGO があり、その他にもいくつか大きなショッピングモールがあります。小道に入ってみると小さなお店もいっぱいあり、高級ブランドから安い食堂まで幅広い種類のお店があるので、ショッピングも食事を楽しむことができます。地元の人と観光客で賑わい、活気のある町です。私は SOGO を回ってみた後、近くにある安いローカルのレストランのお店に入って軽く食べました。香港独特の雰囲気がありその店をとっても気に入りました。



また、近くにヴィトリアパークがあり、地元の人はもちろん、イスラム教徒やフィリピン人など、外国人のコミュニティの集まりがありますので、香港の特色のひとつである多文化さを感じることができます。少し歩けば海もあるので、豊かな自然と高層ビルの景色を楽しめます。香港島の真ん中にあり、中文大学から地下鉄で約1時間もかかり、乗り換えも多いですが、見るところが多いため香港を満喫できると思います。

4. 西貢 (サイクン)

沙田からバスで40分程度で行ける素敵な港町です。私はゆっくり沙田で飲茶を楽しんでから西貢に向かったのが到着したのはもう午後3時ぐらいでした。天気が良くて海もとてもきれいで癒されました。家族連れとグループで賑やかでしたが、同時に海と緑の落ち着いた雰囲気でもゆったりできて良いところだと思います。浮き輪や水着などマリナグッズのお店や海鮮類やエスニックなレストランなども結構ありました。

散歩した後、船に乗って約30分で海の景色を楽しむことができました。最後に橋咀洲 (sharp island) に渡りました。小さな島で時間帯が遅かったのか、海水浴客がそんなにありませんでした。自分は水着がなくて水遊びができなかったのが心残りでした。また、橋咀洲にはハイキングコースもあるようですが、時間がなかったため詳しく見られませんでした。海も山もあり、初めて香港の自然の美しさを知りました。帰り道に西貢にある海鮮レストランで晩御飯を食べました。美味しく値段もリーズナブルで大満足でした。ちなみ

に、旺角からミニバスで30分ぐらい行けるので、旺角で買い物や食事をした後に西貢に向かってもいいかもしれません！



海と山。最高でした！

5. 香港大学

香港中文大学のライバルと言われる香港大学を見学してみました。中文大学とは違い、キャンパスはそれほど広くはなかったです。夏休みだったので、学生があまりおらず、逆にカメラを持つ観光客や一般人がよく見られました。美術館、スタバやおしゃれなレストランも多くあるのであまり大学という感じがしなかったです。また、ビジターセンターというところがあり、カバンやTシャツ、ぬいぐるみなど大学名入りの様々なグッズを売っているので買い物が楽しめます。



マカオ編

文責：筒井康太

マカオや深圳観光向けに、香港中文大学の学生（TA）1人とサマープログラム参加者の7人ほどのグループが組まれていました。ここでは、私が参加したグループ5のマカオでの一日を簡単に紹介します。

準備されたバスに寮から乗り、香港島のフェリーターミナルへ移動しました。そこからマカオまで船で約1時間でした。香港とマカオは別の特別行政区なので、行き来する際に出入国審査がありました。通貨に関して、マカオにはパタカと呼ばれる独自の通貨もありますが、基本的に香港ドルを同じ価値で使うことができました。



マカオのフェリーターミナル

マカオのフェリーターミナルに到着です。マカオは数十年前までポルトガル領だったため、壁の表記が中国語とポルトガル語になっていて、香港との違いを感じることができます。

マカオはあまり公共交通機関が発達していないため、徒歩もしくはホテルが出しているバスでの移動が基本でした。私たちのグループは、マカオに到着してからベネチアンホテルのバスで、ホテルへ移動しました。

1. ベネチアン・マカオ・リゾート



外から見たカジノ（中は撮影禁止でした）

ベネチアンは、全室がスイートルームという高級ホテル。このホテルには、世界で一番広いカジノがあります。マカオのカジノ収入は、ラスベガスより多く世界一となっています。マカオのカジノは21歳以上という年齢制限がありますが、クリアしていたので中の様子を見ることができました。

中に入ってみると、カジノ内は並み外れの広さがありました。入口を入っすぐのところでは、マカオで人気のある「バカ



ショッピングモール内の運河とゴンドラ

ラ」といったゲームや、トランプを使ったものなどが行われていました。それらのテーブルには最低の賭け金が指定されていて、中には HK\$1,000 以上のテーブルもありました。このカジノでは、昼間訪れていることも関係している可能性はありますが、タンクトップや短パンといったカジュアルな服装で来ている人も多く見られました。またホテル内にはイタリアのベネチアのように、運河が流れるショッピングモールもありました。様々な施設が充実していて、ホテルの中に街があるように思わせるほどのものでした。

2. 官也街

マカオ・タイパ島で一番賑やかな通りと言われています。私たちのグループは昼ご飯をこの通り沿いにあるレストランで食べました。この時のメニューはカニを使ったお粥やブロッコリーなどでした。費用は学校側が負担しているようで、自分たちで支払う必要はありませんでした。

食後は多少の自由時間がありました。この通りには多くのお土産屋さんやテイクアウトのできる食べ物屋さんが並んでいました。そこで甘いものが食べたくなり、安德魯餅店 (Lord Stow's Bakery) のエッグタルトを買いました。味や中身のとろけ具合がよくとても美味しかったです。後から調べてみたところ、このお店はマカオのエッグタルト発祥のお店として広く知られているようです。



美味しかったエッグタルト (場所は違いますが、同じお店の写真です)

3. 北帝廟



官也街と呼ばれる地区でごはんを食べた後に訪れたのが、北帝廟とよばれる寺院でした。あまり大きな寺院ではありませんが、日本人がよく知るお寺とはかなり異なっていて印象に残っています。例えば写真の渦巻き線香が入口を入るとすぐに吊るされていて、不思議な雰囲気を出しています。このような形の線香は、マカオや香港などで使われているようです。

4. 大三巴街&聖ポール天主堂跡

大三巴街は、聖ドミニコ教会から聖ポール天主堂跡に続く通りです。この道の両側には土産店や食べ歩きできる食べ物の店など、たくさんの店が並んでいました。そして観光客と思われる人も多く、とても賑わっている印象でした。



土産店などが並ぶ大三巴街



聖ポール天主堂跡

大三巴街の道の先には、聖ポール天主堂跡があります。聖ポール天主堂は、17世紀初めにイエズス会が建てたものの、19世紀の火災で建物の多くを焼失して、現在のように壁面だけが残っているとされています。この壁面の前は階段状になっていて、観光客の撮影スポットになっています。

深セン編

文責：市瀬 凜

深セン遠足の日も CUHK の TA とともにグループで行動しました。大学駅に集合し、普段はあまり出向くことのない落馬洲駅方面へ。ちなみに中国本土に入るためのビザは日本とシンガポールの国民のみが発行手続きを免除されていて、他の国の学生たちは煩雑な手続きを処理し、高額なビザ発行料を支払わなければならないので、ほとんど参加していませんでした。落馬洲駅は深センに向かう国境沿いの駅だからか MTR の運賃が普段より高額でした。明確には中国国内を移動しているだけなので、国境という表現は不適切かも知れないのですが、その他に適切な表現が見当たらないので国境としておきます。香港内部の運賃は基本的に安いのですが、おそらく国境を越えようとするとう交通費は高額になるようです。（香港国際空港に向かう時、MTR の空港快速に乗ると \$70 近くかかります。バスに乗るとそうでもありませんが。）国境周辺に近づくと連れて、MTR の窓からの景色が変わってきました。香港側はかなりカントリーサイドの地域なので山の緑に囲まれ、まばらに住宅地や農地があるだけなのですが、中国本土側は高層のビルやマンションが目立ち、



地下鉄の切符。改札機にかざして使う。

発展を続ける中国そのものといった景色が広がっていました。ただ、CUHK の学生は「あれは政治的理由から中国本土がいかかに発展しているかを主張するために、国境沿いにわざと目立つように高層ビルを密集させているんだ。実際の本土はあんな風じゃない。」と言っていました。真偽は定かではありませんが、少し香港と本土の溝を感じました。MTR を降りてからはすぐに中国の海関を通過できました。国境を越える時に香港と深センの国境には小さな川が流れていて、その上を渡っているときに、香港でもない中国本土でもない場所だと言われて、不思議な気持ちになりました。

国境を越え、深センについてから最初に向かったのは、隣接したショッピングモールでした。ここに行くまでにも中国本土の地下鉄を利用したのですが、それもまた MTR でした。しかし中国本土では八達通（オクトパスカード）が使えず一人ずつ地下鉄の切符を買うことになりました。本土の切符は IC チップが内蔵された 500 円玉ほどの大きさの緑色のプラスチックコインで私が今まで見たことの無いものだったので、とても興味深かったです。さらに本土の MTR に乗るときには空港で行うような荷物の検査があり、駅の改札を抜けるとすぐに手荷物をコンベアの上に乗せ危険物が入っていないか確認されました。

MTRに乗るのがかなり不安になりました。到着したショッピングモールでは様々なブランドショップが軒を連ね、レストランフロアには中華はもちろんのこと日本料理から欧米系の料理まで多彩なお店がありました。私たちのグループはここにある外婆屋(Grandma's home)という中華レストランで昼食をとりました。このレストランはとても有名なお店だったため、一時間近く待ちましたが、その甲斐もありました。出て



外婆屋の料理

くる料理はおよそ全て絶品と言えるほどのもので、皆大皿をほぼ完食していて、私はこのレストランのためだけでもう一回深センを訪れてもいいと思いました。

次に私たちは深センのアートギャラリーに向かいました。ここに行く途中で街中の道路を通るのですが、香港に比べて自転車を利用する人が圧倒的に多く、そのため歩道の幅も十分とは言えませんが広がっていました。さらに道路の中央分離帯の柵には「自由、平等、教養、自主…」などの文字が書かれた横断幕が垂らされており、共産主義の秩序維持のための努力に異質な雰囲気を感じました。アートギャラリーではオブジェやウォールアートが目立ち、その真ん中ではストリートマーケットが開かれていました。また、このあたりの地域では紅茶の中にスイカやパイナップルなどを入れたフルーツティーが有名らしいので飲んでみるといいと思います。途中にはエアコンを備えたカフェがありましたが、メニューに書かれている商品は皆高額だったので入店を諦めました。これは深センの多くの場所で言えることですが、香港ほどエアコンは強くありませんでした。そして所々エアコンが稼働していない建物やレストランなどがありました。さらに香港のようにビルの上層階の室外機から垂れてくる水で涼むこともできません。来年行く人は時期的にも香港以上に熱中症に気をつけた方が良いでしょう。

最後に私たちは深セン博物館に向かいました。ここは古代から現代、特に改革開放期までに至る深センの発展の歴史がジオラマやろう人形を用いて説明されています。私たちはグループのTAの提案に任せて学芸員の方から展示について逐一説明を受けることにしました。主にみたのは中世から、近世まで。英仏による砲艦外交を受ける前までに発展した典型的な中国文化を目にしました。そこでは農耕民としての広東地方の中国人たちが行った豊穡を祈る儀式や、家の様子、子供たちの通過儀礼の場面などが展示してあり、どれも興味深いものでした。現地の学芸員の方がマンダリンで解説をし、それをCUHKのTAが要約して解説するという形をとったので思いの外時間がかかり、全ての展示を見切ることができませんでした。ちなみにこの博物館は鄧小平の改革開放政策を記念して建造された博物館であるようなので、一番の見所はそのあたりだと思います。実際、博物館の展示の規

模や、建物自体の大きさから言っても、もはや途上国のそれでは無いと言った感が強く、経済成長を続ける中国の一片を感じられた瞬間でした。

<深セン旅行を終えて>

おそらく昨今の凄まじい経済成長を続ける中国に対して興味を持たない人は少ないと思います。もちろん私もその一人です。

深センを観光して感じたのは中国の底知れない経済規模です。あれだけの高層ビルを何本も建て上げて、さらにその成長が現在も続いているという事実には驚きを隠せません。しかし、私がみた深センというのは深センのほんの一部であり、深センを感じた程度のものでしかないと思います。なぜこのまちがこれほどまでに発展しているのか中国の経済はなぜ成長し続けられるのか。この街を回ったすえに得た感想は、感想というより疑問。知的好奇心に繋がるものだと言えます。

またこれに関連して言えることですが、自分はなんとこの街のことを知らないか。なんとこの国のことを知らないか。このやるせなさが研修期間中、常に自分を憑いて回りました。自分がもう少しこの街について知っていればこの研修はもっと充実したものになったのではないかと、研修中もっと違うものの見方をしていたのではないかと。この研修中に得られるインプットもその後の報告書作成で必要になるアウトプットもより優れたものになったのではないかと。あまりにも見えていないもの、知らないものが多く、絶えず疑問が浮かび解決しないまま頭の奥に、もやとなってたまり続けました。

自分に対する葛藤と終わった後の後悔は絶えることがありませんでした。現実問題としていくら現地についての知識を入れてもこの問題が解決することはないでしょうが、自分の中でわからないことが溢れ出してただ街を感じることにしかできなかったように思えます。今自分の目の前にある現実の裏には膨大なインフラが整備され、人の流れがあり、



深センの高層ビル

様々な技術が利用されている。ですがその正体は何一つとしてわかっていませんでした。

自分は深センの旅行を含め、海外に出るという経験を経て、日本で得た知識が現実として目の前にたちあられるという興奮を味わうとともに、その興奮を十分には味わいきれなかったという悔しさも同時に味わいました。もし来年この報告書を見て、自分と同じように海外に出て行くか迷っている方がいるならば、海外に出るという経験は当然勧めるとして、その前には現地がどのような場所かできる限り調べて欲しいと思います。その国の歴史、インフラ、文化、技術など。事前学習が充実していればいるほど、現地についた時の興奮は高まるだろうし、頭の中

で単なる文字列や画像として保存されていた情報がとても生き生きしてくるはず。身体性と繋がった知識は深く頭の中にインプットされ、それらを踏まえてさらに深い問いが必ず生まれると思います。逆に言えば私が今回の研修を踏まえて仮定する学びとはこのようなものであり、書を広げ、自分の足を動かし、感覚と結びつけることで本当に学んだと言えるのではないかと思います。

個別報告

留学を通して私が学んだこと

文責：田代百合子

留学は私の大学入学時からの念願でしたので、今回のプログラムは4.5年越しの願いが叶うということでも楽しみにしていました。香港にて4週間と近場かつ短期間だったものの、期待していたよりもはるかに多くの学びがありました。自分が大事だと思った学びと気づきの一部を、備忘と整理を兼ね記録しておきたいと思います。

1. 「中国語を学ぶ」ということに関連する気づき

帰国子女である私は、英語は「勉強した」というよりも「知らぬ間に覚えた」感覚に近かったため、この年齢で初めて「新しい言語を体系的に学ぶ」という経験をしました。今まで漠然としか理解していなかった「人が語学を勉強することの実用面以外での意義」の感覚的な理解ができたのでまずそのことについて書き、続いて「ではどのようにして語学を習得すればよいか」を反省も兼ね書きたいと思います。

● 新たな言語を学ぶ意義

言語と文化/国民性は切り離せないので、言語を学ぶと、学ぶ過程や学んだ言語を使って新しく出会った人との対話などから、その言語圏への理解が進みます。例えば、シンプルな例を出すと、英語には敬語がありません。なので、英語話者に日本語の敬語を説明しようとする、「日本には高齢者や目上の人間を敬うべきであるという考えが浸透している。その尊敬を言葉で示すために、相手を立てる尊敬語や自分を遜らせる謙譲語がある」という文化的背景から説明しなくてはなりません。要するに、言葉ひとつ覚えたりするにも、その背景にどのような考え方があるのか、どういった価値観から派生したのかを大いに学べるのです。

このように単一文化の中で生きてるとあまり出番がない頭の使い方（明文化されていない前提概念みたいなものを、観察したり感じたりしたなかで整理して理解する頭の訓練）ができるようになると、自分の経験してきたこと以外にも多様な考え方があることに気付けるので、様々な考えに開放的になれると思っています。今までよりも理解できる価値観の幅が広がると、より大きな母集団の中で自分の価値観を相対化できるので、自分自身の価値観に対する理解も深まります。言語を学ぶと、考え方や生き方の大局観を得られるという意味で、言語学習はとても意義深いのだと知りました。

● 新たな言語を学ぶコツ

毎日5時間×週5日×3週間の間中国語を学んでいたにもかかわらず、今回の滞在での習熟度は低かったように思います。私の吸収速度が遅かった可能性もありますが、今回はただ単に時間が足りなかったのだと感じています。また、【書く→覚える→文脈の中で使

う→対話する】という「体験」としての言語学習を多く行った方が、座学よりも遥かに言語を自分のものにしやすいと感じます。そのため、やはり本当に言語を学びたいと思うのであれば、1ヵ月以上現地人とともに暮らしその言語に頭からつま先までどっぷりと浸かる期間を設けるのが一番効率的であると思いました。

また、言語の習得には経験効果があるのではないかと感じます。既知の言語が増えれば増えるほど、新たな言語（言葉）を学ぶときに参考にできる情報や概念が増えるからです。例えば、母国語が英語の人が、日本語の「いただきます」という言葉を学んだとします。「いただきます」に相当する語彙は英語には存在しないため、直訳的な意味はわかっててもどのような文脈で使われるのかは非常に分かりづらいはずです。しかし、例えば先にフランス語を勉強していて“bon appetit”の概念を理解していれば、「なるほど、“bon appetit”の、料理を振る舞う側ではなくいただく側が言うバージョンのものか」というような連想ができるし、ドイツ語版「いただきます」である“guten appetit”を知っていればなおのことピンときやすいでしょう。つまり「ああ、〇〇語で言うところの『〇〇』みたいな感じね」の脳処理スピードが、多くの言語を知っていれば知っているほど速くなるというイメージです。今後学ぶかもしれない4つ目以降の言語のためにも、大学を卒業するまでにもう少し勉強して、日常会話程度までできるようになればいいなと思いました。

● おまけ：日本語の美しさについての気づき

たくさんの人々を束ねるために包括的かつ寛大でなければいけないからか、中国語はすっきりとした機能美の言語、という印象を受けました。それに対し日本語は、細かな差異を説明するための語彙が豊富で、とても繊細で丁寧であるように感じます。他の言語を学ぶことで日本語の美しさにも気付けたことは嬉しく誇らしいことでもありました。

2. 自分と異なる考えや文化的背景を持つ人と交流する意義についての気づき

● 知識や情報として異文化を学ぶのではなく、人から学ぶから意味がある

先述の「新たな言語を学ぶ意義」と大きく重複してしまいましたが、やはり自分以外の価値観や考え方に触れることは非常に有意義で、自分を深みのある人間にする手助けをしてくれると考えています。今回のプログラムを経て、私は今までと比べてずっとずっと大きな世界の中で、自分自身がどこにいるのかを（以前よりも）意識するようになりましたし、意識し続ける習慣をつけたいなと思いました。語学の勉強ももちろん楽しかったのですが、他国の学生が世界の違う見方をたくさん教えてくれたのが楽しくて仕方がなかったのです。純粋に、自分が知っているものの範囲が広がると自分を相対化でき、瑣末なことでぶれたりしなくなる気がします。よって、言語だけではなくいろんなことを学んだりして価値観の幅を広げ続けることは、些細なことで迷ってしまいがちな私のような人間にとってはきっと特に、生きていく上でとても大事な知恵です。

中でも今回はとにかく本当に素敵な他国の学生にたくさん会うことができたので、それ

だけでも行った価値があったなと思います。他国の学生と交流する中で、今まで自分が当たり前にあるものだと考えていたものが当たり前でなくなる感覚を得ました。

日本という、安全でインフラも整備され、国民のリテラシーが高い豊かな国に生まれて、私は本当にラッキーだったのだということ。他国の学生は言語能力が非常に高く、考えている内容だけではなく考えたことを伝える能力もレベルが高く、到底敵わないと感じたこと。

挙げていけばきりがありませんが、それらの一つ一つの国や文化の違いがどこから来るのかが不思議で、いろいろと考えたり調べ始めたりすると、ようやく歴史・経済・地理・社会・政治の関連性が見えてきて、もっと勉強してみたいと感じるようになりました。与えられた少ない選択肢の中で生きていくことよりも、考えたり調べたりして広げた見聞や知識を使って、自分がどのように生きていくのかの選択肢を増やしていくことができればいいなと思いました。

私は半年後に社会人になります。社会人になれば、きっと即物的で、結果として目に見える目標を追うことが今よりも圧倒的に多くなると思います。そういった指標も重要であることは認識しつつ、数字ばかりの世の中に埋もれずに審美眼も養いたいな、と留学を通して強く感じるようになりました。香港で出会った素敵な人たちのように、出会う人やものに色んな魅力を見出しては自分のものにして、人生を自分の好きなものでいっぱいにしていきたいと思いました。

今回書かせていただいたことは、留学で学んだことのほんの一部です。はっきりと言葉で表すにはもっと時間が必要な学びもたくさんあるので書ききれませんが、もしこれから留学に行こうか迷っている人が居れば本当にお勧めしたいです。本プログラムに関わったみなさま、現地で出会った友人たち、一橋からの参加者のみんな・先生方、そして難色を示しながらも最終的には行くことを許してくれた両親に感謝したいと思います。ありがとうございました。

私が香港で得たもの

文責：乾 恵梨奈

今回の香港短期留学を一言で表すと「人生最高の夏休み」です。4週間という短期間の中で喜怒哀楽様々なことがありました。でも圧倒的に喜と楽が多かったです。

他のメンバーが書くであろうロジカルでスマートな内容とは異なると思いますが、4週間で時系列に、超個人的目線で振り返って行きたいと思います。

<留学前>

3年時に如水会の留学でペンシルベニア大学への留学が内定していましたが、諸事情により4年4月下旬に取り消しになってしまいました。急遽始めた就職活動はなかなかうまくいかず、何とか内定をいただきましたが、第一希望の職種ではありませんでした。そのまま就職するか、就活浪人するかについてなど、自分の将来像について悩んでいました。留学や就活がうまくいかなかった敗北感や不安を抱えてもやもやした気持ちで過ごしていました。ペン大留学が取り消しになった時、このまま留学せずに学生生活を終わることは悔しいと思ったことと、個人で旅行をした時に香港をとて気に入ったことから今回の参加を決意しました。金銭的な面や、体育会の練習に参加できないことなど、参加するにあたって悩むことはありましたが、母親をはじめとする家族、部活動の仲間、友達など周囲の人々が応援して送り出してくれて、とてもうれしかったです。参加費用、時間、みんなの応援を無駄にしないためにもたくさんのお話を吸収し、めいっぱい楽しんで帰りたいと意気込んで出発しました。

<1週間目> 「カルチャーショック」

まず、1日目から町の臭いと食べ物のまずさに萎えました。なんだかどこに行っても臭においが気になるし、食べ物も口に合わないし、お肉は整理整頓されてないし、イヤイヤ期の子供なみにいやいや言っていました。でも、においは3日で慣れました。食べ物は、ベジタリアンなど少しずつ自分が好きなものを開拓していきました。そして、語学面でも、自分の分からない言語にさらされるという経験が初めてに近かったので、言葉が通じないということがこんなにもストレスに感じるということを体感しました。また、3年半、英語を日常的に使う環境にいなかったため、自分の英語力が大幅に低下していることに気が付き、ショックで泣きそうになりました。中文大学での最初の1週間はオリエンテーションなど集団で行動する機会が多く、集団行動が苦手な私には正直ストレスに感じました。せっかく苦手を克服するために留学に来ているのに、様々な国の人と交流する他、たくさんの友達を作っている友人を尻目に、集団で出かけるのが億劫で仕方ない自分に苛立ちを感じました。初めの1週間はとにかく憂鬱な1週間でした。

<2週間目> 「無理のしすぎか体調をこわす」

なんとか留学を成功させたいと気を張りすぎたのか、香港のエアコンが強すぎるのか、食べ物が口に合わないのか、明確な原因はわかりませんが、普段超健康優良児なのですが、数年に1度あるくらいの体調の悪さに見舞われました。保健センターに行ったらすぐ良くなりました。麻薬みたいに見えるカラフルな処方箋の薬は怖かったけれど、すべて無料で受けられて、中文大学の医療システムは偉大だと感じました。一橋大学では薬まではくれません。体調が回復したあたりから香港の生活にも慣れていき、徐々にストレスを感じずに過ごせるようにもなりました。

< 3 週目目 > 「自分に素直に過ごす」

集団行動が苦手なひとり行動が多い事に罪悪感が少しあったのですが、3週目あたりから、自分の好きなことを好きなだけやろうと思えるようになりました。放課後は毎日1人でぷらぷら、香港を探索し、深夜に帰ってきてはルームメイトに呆れられました。中国語の授業でも、それまで他の人と比較し、他の人よりもできない自分を情けなく思っていたのですが、ダメな自分を受け入れて、自分に合ったペースで学習ができるようになったと感じます。結果、肩の荷がおろして、のびのびと香港生活を楽しめるようになりました。また、集団から距離を置くことで、数は少なくとも、自分と本当に気が合う友人との仲を深めることができました。

< 4 週目 > 「香港に惚れる」

香港最後の1週間は楽しすぎて、正直記憶があまりありません。フィールドワークも、「どうやったら最も良い成果が得られるか」よりも、「どうしたら自分たちの残り少ない香港ライフを楽しめるか」に重点をおいて行動しました。あまり模範的な生徒ではないと思いますが、私たちのグループは間違いなく、フィールドワークを最も楽しんだと思います。そして、最終プレゼンで優秀賞をいただいた時は、「自分らしく、何事も楽しむ」という姿勢でも結果は伴うということを証明できた気がしてとても嬉しかったです。また、最後の1週間は中心部のホテルに滞在したため、香港の様々なところへ足を運びました。また、現地の友人もでき、香港のいろいろな表情を見ることができました。最初に感じていた不便さもなんだか香港らしくてかわいいとまで思えるようになってきて、エキゾチックさにくらくらしました。

< 今回の短期留学で得たもの >

- *これから先もずっと仲良くしていくであろう友人
- *多少の中国語（今後継続して、卒業までに中国語検定3級を目指します！）
- *自分を受け入れて、自分らしく楽しむことの大切さ

余談ですが、今回の留学で気が付いたことのひとつに、言葉と思考の結びつきがあります。

日本語を話している時と英語を話している時では、自分の考え方や価値観に差がでることを感じました。私は日豪のハーフですが、香港という東洋と西洋が混じり合う都市で、様々な人と接し、いろいろな経験をしたことは自分のアイデンティティを見つめ直す素晴らしい機会になりました。人生のこのタイミングでこのような経験ができたことをとても幸運に思い、運命にすら感じます。私を支えてくれたすべての人に心から感謝します。今度香港に行くときは、もう一回り成長した自分を見せたいです。あー、早くまた香港行きたいー！

香港での一ヵ月を経て

文責： レイ (LE THI AN BINH)

私がこの研修プログラムに参加したのは、香港が好きだからです。研修プログラム以前に、香港には一度も行ったことがありませんが、ずっと憧れの街でした。広東語、中国語、英語といった三つの言語が使われ、東洋と西洋が融合する、アジアで最も発展している場所なので、昔から面白いところだと思っていました。実際に、自分で広東語を勉強してみましたが、やはりなかなか上達しないので、今回のプログラムを通して、現地で滞在し、広東語、または中国語を吸収し、言語力を向上することを目標の一つにしていました。もう一つの目標は慣れない新しい環境で自分がどうやって行動するか、自分が実際どんな人なのかなどを知り、自分の長所と短所についてより理解を深めることです。ここでは、この二つの目標とその結果、そして今回の研修の全体的な感想を順番に述べていきたいと思います。

一つ目の目標「語学力の向上」については、期待以上に達成できたと思います。まず、中国語の勉強ですが、一年生のころに一年間学習しましたが、一年経っても「ニ・ハオ」しか喋れないレベルでした。それで今回は勉強したにもかかわらず、ビギナークラスに入りました。漢字や文法のクラスとピンインのクラスと二つの授業に分けられた非常にインテンシブなコースだったため、授業の一日目と試験の日の自分の能力の違いがはっきり分かります。たった3週間でしたが、毎日中国語を聞き、読み、限られた単語で中国語をしゃべり、リスニング力とスピーキング力が前と比べてかなり上がりました。これから大学で中級の授業も受け、せつかく香港で学んだ中国語を忘れないように頑張ります。また、中国語のクラスしかなかったため、正式に広東語の勉強ができませんでしたが、香港の標準語が広東語であるため、毎日バスや学食で広東語が自然に耳に入り、難しい声調をより直観的に分かるようになったと思います。そして香港人の友達もでき、その人たちに広東語を教えていただきました。教科書に載っていない若者の言葉や香港人に特有な英語の単語を学べて非常に嬉しかったです。やはり、言語の勉強はテキストより、実際体験した方がより吸収できることを改めて感じました。

二つ目の目標は新しい環境での自分の行動を振り返り、自己理解を高めることです。大学二年生の時に言語研修プログラムで一ヵ月アメリカに滞在したことがあります。その時自分について色々な発見ができました。例えば、それまでずっと私は外で自然の多いところで働きたいと思っていましたが、実際は自然より都市のオフィスのほうが自分の適性に合っていました。このように、今回も小さいことから自分の性格や考え方、態度、行動などをより深く知ることに期待しましたが、香港がそれほど慣れない町ではないためか、期待していたほどの新しい発見がありませんでした。一つ分かったのは、私は自分から発信するより受信するスキルの方に長けているということです。一つの例として、意見を述べる時、言いたいことを全部伝えきれず、そして分かりやすく説明することができないという自分の短所がはっきり分かりました。その反面、ディスカッションでの各々の発言を頭の中で整理す

ることはできていました。これから発言するスキルも身に付け、脳内で整理したものをきちんと伝え、悔しい思いがないように心掛けたと思います。

今回の研修で出発する前から色々なトラブルがありました。ベトナム人の自分はビザの手続きが他のメンバーとは違い、手間と時間がかかりました。出発するまで残り3日の時点で、まだビザが降りず、香港に行けるかどうか最後まで分からない状況でした。ですが、最終的にはビザが降り、無事に出発できたので嬉しかったです。中国本土とマカオのビザがなく、研修旅行に参加できなかったのは残念でしたが、その分自分で香港を観光し満喫できました。また、香港に滞在する初日から部屋の鍵を失くしてしまい、土日を挟んでいたのですが再発行できず、とても困りました。学校のバスに落としたので見つかるのではないかと少し期待しましたが、残念ながら見つかりませんでした。このような遺失物に関する部分はやはり日本の方が整備されていると思いました。週末に鍵がなく、寮を出る時も戻る時も他の人に頼まないといけませんでしたが、皆親切にゲートを開けてくれたし、ルームメイトも優しく配慮してくれたので乗り越えられました。色々トラブルがありましたが、先生方、地球の歩き方の堀部さん、そして周りの方々のおかげで無事にこの研修を終えられました。普段トラブルに遭うとすぐ落ち込むことが多いのですが、今回は「なんとかなる！」とポジティブに考えていました。そうすると、物事が本当にうまくいきましたので、今後は何があっても楽観的であることが大事だと思いました。振り返ってみると今回の研修を経て自分は精神的に強くなり、成長したと思います。

長いようで短い一ヵ月でしたが、たくさんの貴重な体験をさせていただきました。得られた知識や発見したものを今後の自分の勉強や仕事で活かしたいと思います。そして、この思い出と、香港での出会いや香港で築いた友情をずっと大切にしたいと思います。最後に、支えてくれた先生、関係者の方々や研修の仲間達に感謝したいと思います。ありがとうございました。

香港研修で得られたもの

文責：筒井康太

私がこのプログラムに参加しようと思ったきっかけは、アジアや中国に対する関心が高くなっていったからです。私は海外には興味があったものの、それらの興味は基本的に欧米諸国に向いていました。そのため、以前はシドニーでの語学研修に参加したことや、ヨーロッパ旅行をしたことはありました。これを変えるきっかけになったのが、高校時代の友人です。彼は中国に1年間滞在していて、前半の半年で北京の語学学校に通い、後半は上海で中国語を使ったインターンシップに参加していました。彼がインターンをしていた上海に行ったときに、現地の実際の雰囲気を見て中国に対する興味が高まり、また自分では分からない言語で問題なく会話が出来ている様子に刺激を受けました。

香港で実際に生活が始まり授業も始まると、困難の連続でした。最初に困ったことは言語です。私は今まで中国語を学んだことはないため、中国語の特にスピーキングが難しいと感じました。発音の違いが聞き分けられず、それを発することもできずに悩んでいました。この時、クラスメイトも同じような悩みを抱えていたので、共感が得られてすこし安心しつつも、上達できるように努力しました。その結果、最後のテストが終わった時に先生から、最初と比べて格段に発音がよくなったと言われて嬉しくなり、もっと頑張りたいと感じました。ただ、香港での日常会話は広東語という、一般的な中国語とは異なる言語を使っているため、勉強しても中国語を使う場面はあまりありませんでした。言語面の困難は英語でも感じました。クラスは様々な国籍の23人が集まっていて、授業や会話は基本的にすべて英語でした。その中で英語が聞き取れないと感じたことや、聞き取れたとしても答え方が分からないというような状況が多くありました。そのため、英語力や中国語力を伸ばしていくことが今後の課題だと感じています。

このプログラムの特徴として、1週間のビジネスフィールドワークが挙げられます。ここでの課題に取り組むために、中文大学の学生とチームを組み現地調査ができたのは、すごく良い経験になったと思います。たとえば、地元の人しか行かないような文具店を調査するような機会は普通の旅行ではできないだろうし、香港の人だからこそ知っている素敵な場所を知ることができたのもこのプログラムだからだろうと思います。そして、このチームのメンバーはやることがとても早く、自分も見習いたいと感じる場面が多かったです。

この4週間の香港生活で感じたことは数えきれないほどあります。特に、香港は中国とは違うと感じることがありました。学生と就職に関する話をしたときに、政治的な自由度の違いなどを挙げて香港の方がいいという話を聞く機会がありました。詳しくは分かりませんが、深圳に行った際に体感したネット規制や、それ以外にも大変なものがあるのかもしれないと感じました。それに、香港は「普通話」ではなく広東語を使い続けているところにも、中国本土との違いを出しているのかなと感じました。ただしこれに関しては、中国から香港に来る人も多く、今後どうなっていくのか気になります。

この1か月の香港での滞在は、香港の実際の様子を知ることができ、私の課題の発見に

も役に立ちました。また、中国語のクラスメイトやフィールドワークのメンバーとの絆が生まれ、とても有意義な時間になりました。そして、この4週間を楽しいものにしてくれた、一橋の6人には感謝しています。この研修で得られたことや課題として感じたことを忘れず、この先でも活かしていきたいです。この研修に参加できて、本当に良かったと感じています。

香港での一ヶ月を通じて感じたこと

文責：平栗 歩実

私がこのプログラムに参加した目的は主に二つありました。一つ目は言語能力の向上、二つ目は異文化に触れることです。

1. 言語能力の向上について

私は今まで中国語を習ったことがなく、今回が初めての中国語を学ぶ機会でした。初めて習う中国語がネイティブの人から直接習うことで、より実践的で正確な中国語が学べたのではないかと思います。また、授業以外にも日常生活の中で中国語を耳にすることで、より効果的に学ぶことができました。しかし、3週間という限られた時間では本当に基礎的な部分しか学ぶことができませんでした。それでも、いま研修を終えて思うことは、3週間という限られた時間であったからこそ最後までモチベーションを高く保ち続けることができ、一生懸命に勉強することができたのではないかと思います。

そして、偶然にも日本に帰ってきてから、中国語を使う機会がありました。それは旅行先で出会った中国人に「謝謝（ありがとう）」と言われ、私が中国語で「どういたしまして」と返した、というただそれだけのことです。しかし一言でも私が中国語を話すと、その中国人はとても驚き、そして同時に笑顔になっていました。一気に相手との距離が近くなるということを感じた瞬間でした。そこで私は、言葉を習うことはとても大切で素敵なことだなと感じました。この経験も踏まえ、今後も中国語の勉強を続けていきたいと思っています。

また、中国語だけではなく、私は1か月を通して英語能力の向上も目標にしていました。実際、この一か月間、特にビジネスフィールドワークでは、英語が話せないために意見を言うことをためらったことや、細かいニュアンスを伝えることができずに、もどかしく悔しい思いをしたことが何度もありました。しかし、限られた語彙力の中で自分の言いたいことをうまく伝える力や、間違いを恐れずに話すという度胸はつきました。また、日本に帰ってからは、よりスピーキング能力の向上に励んでいきたいという目標の再確認にもなる良い機会となりました。

2. 異文化交流について

今回が初めての香港であったということに加えて、私は、今まででアジアの国を訪れたことがなく、香港に対して、「日本と同じアジアに位置するのだから文化も日本と似ているのだろう」と勝手なイメージを持っていました。しかし、このイメージに反し、香港は日本と違うところが多くありました。同じアジアだと思って1つにまとめてはいけなと感じました。また、興味深かったことはプログラムの一環で訪れたマカオと中国本土、それぞれが違う雰囲気を持っていたことでした。歴史的背景や制度などが文化の形成に大きな影響を与えるということを感じることができました。

これら以外にも同じプログラムにいた人は様々な国の出身で、また、私のルームメイトは

イギリス出身であったので、プログラム全体を通して異文化交流の良い機会となりました。加えて、多くの文化に触れたことによって日本の文化について改めて考え、また、良い点悪い点についても考えるきっかけとなりました。

最後に、この一か月は多くのことを学ぶことのできた有意義でかけがえのないものでした。困難に直面することもありましたが、それを乗り越え、大きく成長できたのではないかと思います。このような素敵な機会を与えてくれた一橋大学の先生方、CUHK の学生たち、そして香港で出会ったすべての人々に感謝しています。

反省

文責：市瀬 凜

0. 私がこの研修を通して考えたことを大別すると三つになる。最初は海外に行くという行為それ自体について。なぜならこの研修は自分にとって初めての海外渡航だったので、日本の国境を越えることにはかなりの負荷があったからである。ここではこの時期に海外に行った理由と、渡港前に立てた目標について述べる。そして次は海外での、自国とは文化、言語が異なる文化圏との交流について。ここでは主に言語の問題について述べる。詳しく言えば英語の学習と第二外国語の学習について自分が現時点で見出した意義についてである。そして最後に日本で行うべき反省とそれを生かした向上である。具体的には香港で英語と中国語について考えた末に自分が一番その重要度を見出した点は日本語能力の充実であったということだ。

1.1 渡港前、自分は海外に行くということに関して明確な理由が見つけられていなかった。香港に行って何を得るのか、行ったあとでどう変わりたいのか、なぜ行くのか、なぜこの時期なのか、なぜ中国語を学ぶのか、ということに対してなんら具体的な回答を出せずにいた。考えられる理由は全て日本で代替可能であるか、強い動機とはなりにくかったからである。異文化を理解したい、語学力を身に付けたい、世界中の国に友達を作りたい。これらは全てやる気さえあれば日本でも実現できるように思われた。そんな中、自分が海外に行く最大の動機は、「海外に行って後悔している人を見たことがない」という留学宣伝のポスターに書かれた一文であった。つまり自分は理由があって海外に行ったわけではなく、根拠なき盲信の結果として海外に行ったのである。学生のうちは海外に行った方がいい、いろいろな人と会うのがいい、英語は鍛えておいた方がいい、コミュニケーション能力が高い方がいいなど、これは日頃大学で生活していればよく耳にする言葉であり、その真偽を確かめる方法も、なぜそのような言われがあるのかを分析する能力も自分は持っていない。そんな中でかろうじて達した結論というのは、理由がわからないからこそ行ってみたい、なぜ海外に行った方がいいと言われるのか、なぜ留学に行った人は後悔しないと言われるのか。果たして自分は留学に行ってよかったと言えるのか。この事実を確かめたい、海外を単純に知ってみたいという子供のような、論理を伴わない、純粋な好奇心ゆえに海外に飛んだと言える。これが拙いながらも自分が海外に飛んだ理由であるが、この経験がもたらした結果は不用意な自分を裏切るように充実したものであり、上述した言葉は信じるに値するものであった。具体的な結果は後述するがその多くは言語化しきれないほど微細な感覚の違いで、強い身体性を伴うものであった。何かが違う。だが何が違うのか。これが香港にいて終始抱いた感想である。

1.2 ここからは自分が香港に行くことを決定してから考えた目標と現在について述べる。

明確な理由を持たなかった自分はとりあえず、香港に行ってできるだけ失敗を積み重ねることを目標にした。失敗することを目標にすることで、自分が挑戦することに関して失敗したら渡港前の目標が達成されることになり、成功したらその挑戦自体が達成されることになる。結果、完全な経験は得られないにしても、常に挑戦を続ける動機となり、多くのことを経験しようとする上で精神的に安定すると思われたからである。

海外の交換留学生に話しかける、授業に関して質問をする、英語を話す、中国語を話す、現地の得体の知れない料理を口にする、大学内や香港内地を散策する。そしてこれらの行動の後には自分の携帯電話や手帳、ルーズリーフに事実と反省を書き付け記録した。友人への報告も合わせて2日に一回程度のペースで反省を繰り返した。

全ての行動はどれも完全に満足が行く程度に達成されることはなかったが、自分の中には多くの失敗の事実が蓄積されることとなった。自分ではできるだけ足を動かして香港にあるものを経験したつもりだが、この目標がどの程度達成されたかというのは目標の性質上断定しかねるものである。ただうまくいかないことに対するストレスに慣れたことで腐らずに何かを続けることに対する忍耐力は確実についた。また自分の頭が動かない時、足を動かせば見える世界があるということも知ることができた。これらの失敗の数々は自分にとってのかけがえのない財産だと思う。この報告書を含め失敗を分析しつづけることで自分の中で香港研修の目標が達成されることになると思う。

2.1 ここからは二つ目の話に移る。すなわち自分が異文化の学生と異国の言語で接する上で学んだことである。まず前提として自分は英語力に自信がなかった。これまで海外に出たこともなければ英会話教室に通ったこともないし受験で飛び抜けて英語ができたわけでもない。そんな自分は最初に言葉の壁に正面衝突した。自分には言いたいことがあるのに、伝えられない。言葉が出てこない。表現方法を知らない。さらに、言葉を口にしたとしても、それが相手に伝わっているかわからない。さらに相手の言っていることも聞き取れないことが多かった。何度も尋ね直し、ゆっくり話すよう頼むがそれでもわからないことすらあった。この時は焦り、虚無感、やるせなさ、などさまざまなストレスを抱えたが、最終的には自分の英語力にただ絶望した。そして帰国後の英語力強化を心の底から誓った。だがその一方で、日々クラスメイトの授業の雑談を聞いたり、すれ違うたびに会釈を交わしたり、一緒にスポーツをしたり、ご飯を食べたり、歌を歌ったりする中で自然と相手の表情が柔和になり、自分も相手に対して親近感を覚えるようになった。そもそもコミュニケーションは言葉のみで行われるわけではなく、顔の表情や目線、姿勢、相手との距離感など身体全身を使って行われるものなのだという事も改めて自覚するに至った。幼少期には当然今のように多くの単語も知らなかったし、物事を表現する方法も知っているわけではなかった。だが、確実に信頼関係や友情は存在していたわけであり、それを構築することも可能であったはずだ。その過程を追体験したことは自分の中で大きな財産になったと思うし、今後の自分のコミュニケーションにも活かせるものが多いと思った。

2.2 ここからは自分の中で第二外国語である中国語を香港で学んだ意義について述べる。自分はこの時期に中国語を学んだことで、英語を大きく相対化できたと思う。これまで英語と日本語の二軸で自分の頭の中は支配されていたが、中国語を学んだことでそれらが相対化された。各々どんな体系の元で文法が構成されているか、どのような発音か、どんな単語か。またアジアの比較的近い地域の言語を学んだことによって日本語との密接な繋がりもわかるようになった。さらに自分の中の予備知識が全くない状態から新しく中国語を学び、身につけたことで、今までの自分の英語の学習方法について見直すこともできた。学んだらすぐに音読してインプットを固め、日常生活の中で積極的に中国語を使うことによって自分で身体的に中国語を習得できたと思う。このプロセスを活かすことにより、私の英語の学習効率も向上すると信じている。

さらにクラスメイトの会話においては中国語を用いることでコミュニケーションの語源としてのラテン語の「Communis」（共有する）を感じる事ができた。私と彼らは同じ授業を受け、同じ言語を学び、それによって感覚を共有しようとした。日本語や英語ではこのプロセスが高速化されているが、新しい馴染みのない言語でこのプロセスを経験したため、ぎこちないながらもそれらを噛みしめる事ができたのだと思う。お互い同じような言語能力で相手が言おうとしていることをできるだけ理解しようと努めたことで、一方的に自分の感覚や考えを伝えるのではなく、相手と自分の考えや感覚を共有するような原的な交流を体験できた。

また、ある論文では言語の意思疎通における機能的価値のみならず、経済的価値についても触れていた。言語が話せることによる情報交換の円滑化、取引先との信頼関係の構築、現地文化の素早い理解などができるようになりビジネスチャンスが広がりやすくなるというものだ。

新しい言語を話せるようになり、現地の香港人や他の学生を含むより多くの人々との相互理解を深め、コミュニケーションを楽しむ事ができた。だがその利点以外にも視点も未来に広げて、より大きな目的意識を持ってこれから継続的に中国語を学んでいきたい。

3.1 この報告書の最後には自分が香港に行って感じたことを総括する形で体験に行つて感じたことをまとめる。香港に行つて一貫して自分がひたすらに悩んだのは意思疎通の難しさである。共通語としての英語があまりにも自分の思考、感覚から離れているために自分の思ったことを即座に的確に表現することが難しかった。そのような状況で自分がかろうじてできたことはあらかじめ脳内で英文を作り、反芻した上で言葉として発するというものだった。しかし、このような形態では会話と呼べるほどの速度は実現できず、内容もかなりぎこちないものになってしまう。さらに自分の伝えたいことが希薄な場合、話始めることすらやめてしまうこともあった。このような事態に直面し、私は香港滞在中にこの問題を解決することはできなくても、帰国後の解決策を模索することを決意した。その結果、自分の周りの世界、自分の内側の心情、考え方を分析する日本語の充実こそがまず必

要だと感じた。日本語によって自分の感覚、思考を吟味し、世界を捉え、相手に伝えようという意思を持たなければそれを英語で他者に伝えることは不可能だと考えたのだ。当然考えたことを英語で表現する機会は必ず必要だが、まず日本語の能力を充実させなければ英語で話すこと、話せることも生まれないだろうということだ。日本語は自分の中の思考、感覚の上澄みであるが、共通語として利用する英語は日本語の上澄みであるはずだ。日本語においても英語においてもその量をできるだけ増やし、濃度もできるだけ濃くすることを帰国した今ここに誓う。

3.2 最後に、前述した通り自分は今回の研修において一日一時間、一分一秒を全て自分の財産となるように活かし切れたかという疑問が残る箇所はある。だが、こうして考える機会を得たことも、帰国後にまで依然として残る感覚的身体的な学びを得たことも今後の人生を左右する大きな財産である。

今の自分は香港にいた時より成長できているか、成長しようとしているか、そこで犯した失敗を改善しようとしているか、遠くに向かって考えようとしているか。この報告書を書いている間中も様々な問いが常に自分の頭について回る。香港と日本をつなげ、研修と日常をつなげ、これらの問いについて考え続けることでこれからの大学生活を充実させた

香港で学んだこと

文責：辻 宏美

0. はじめに

香港での4週間、とにかく楽しかったです。その上で、私の視点で4週間を振り返ってみようと思います。

1. 中国語学習について

中国語のクラスは4つに分かれていました。その中でも、私は一番下の Beginners Lower で受講しました。初心者向けのクラスなので、発音練習から始めます。一つ上の Beginners upper は、基本的な文法事項も頭に入っている人向けのクラスでした。

素直な感想としては、クラス分けをもう一つ増やしてほしいです。Lower は、今まで一回も普通話を学んだことがない人にとってはハード過ぎます。一方で、数か月学んできた人にとっては、そこまで大変ではありませんでした。私は Beginners の Middle だったのだと思います。

5月末に受けたプレイスメントテストでは、Oral は Lower で Grammar が Upper でした。そのため、大学側は私を Lower に振り分けました。最初の数日は、このレベルで良かったのかと、凄く悩みました。本当は無理して上のクラスに行った方が良かったのかもしれない。逃げてしまった気がしました。しかし、結果的には良かったと思います。その理由としては、先生とクラスメイトとの関係にあります。

初めに、先生ととても仲良くなりました。クラスの中では普通話に慣れている方だったので、先生と話す機会が自然と増えました。一人の先生とは、おすすめの調味料を聞くまでに仲良くなりました。彼女は Oral の先生だったのですが、最後の1対1のテストが、いつの間にかお喋りになっていたのも印象的です。もう一人の先生は、日本語を勉強していて、日本人の生徒には、時に日本語で説明を加えてくれました。私を含めた日本人の学生に、日本人が普段使う言葉を聞いてきたこともあります。

クラスメイトにも恵まれました。他の国の学生も多く、色々な人がいて楽しかったです。また、同じクラスの日本人の子とは、日本に帰ってきてからも会うほど仲良くなりました。

2. 日常生活について

香港に滞在していましたが、語学研修に参加している間は、当然ですが香港の人以外との交流が多くなります。しかも、この研修は参加者の半分以上が日本人でした。日本人は固まってしまうとよく言われます。行く前は、他の国の人と交流しようと意気込んでいました。結論から言うと、一番一緒にいたのは日本人でした。途中そのことでとても自己嫌悪に陥りそうになりました。しかし、日本人の友人が沢山出来たのも悪いことではなかったと思います。

日本にいと、日本人であるという大きなカテゴリに加えて、様々なカテゴリがあります。それは出身であったり、大学であったりします。自分と全く違うカテゴリに属している人と

は通常関わりがあまりありません。その点、海外に行くと、特に研修などに参加するときは日本人というカテゴリに全員入れられます。ある種のマイノリティになるからこそ、知り合うことが出来た人たちがたくさんいます。海外で出来た日本人の友達、というと少し不思議な響きかもしれませんが、大切にしたいと思います。これは一橋の人たちも同じです。この研修に参加しなければ知り合うことはなかったと思います。本当に出会いに感謝です。

他の国の友人も出来なかった訳ではありません。一緒にごはんを食べたり、喋ったりできて、本当に良い経験になりました。上で触れた Oral の先生は、友達になろうと言ってくれたので、勝手に友達だと思っています。

3. 今後について

今回香港の研修に参加した理由は大きく二つありました。一つ目は、中国語学習のイメージをつかむこと、二つ目は長期留学のためのステップとすることでした。

一つ目についてですが、目的は達成されたと思います。授業はそれほど大変ではありませんでしたが、今まで覚えたことを滑らかにアウトプットできるようになりました。たった1か月なので急激に上達したとは思えませんが、良い変化があったことは確かです。モチベーションは確実にあがりました。

二つ目についてですが、他の国に滞在するという経験ができた意味では良かったと思います。しかし、考えさせられる点もありました。この4週間の最初の方は、情報量が多く、何もしていないのに日々が過ぎていく感覚でした。これはとても恐ろしいことだと思います。しっかりと目的をもってタイムマネジメントをしないと、流れるように日々は過ぎていきます。何も出来ずに終わった、ということもあり得るでしょう。そう考えると少し怖くなりました。その意味では、今回この恐怖に気づけて良かったと思います。

いつの間にか時間が経ってしまう。これは日常生活にも通ずることです。大学生活4年のうち、八分の一はもう終わってしまいました。目標を持つことを忘れず、大事に過ごしていきたいと思います。

最後に、この研修で関わった全ての方に感謝申し上げます。

編集後記

【田代 百合子】 報告書を作成し、改めて自分が体験したことから生まれた学びや気づきを整理できました。読んでいただく皆さんにも、留学によって得られるものは知識のみではなく自分の人間としての幅なのだということを分かっていたいただけたならば幸いです。

【乾 恵梨奈】 辛かったことや楽しかったこと、すべてが今では良い思い出です。とても充実していた四週間でした。この研修で出会ったすべての人に感謝しております。ありがとうございました。

【Le Thi An Binh】 初日で鍵を失くしてしまったなど香港での生活は山あり谷ありでしたが、振り返ってみると様々な経験ができて自分自身が成長できた充実した一ヵ月だと思います。やさしく支えてくださった先生方やチームメンバーに感謝します。

【筒井 康太】 1ヶ月間のことを振り返ってみて、日々がとても充実していたと感ずることができました。色々な方の支えに感謝しています。

【平栗 歩実】 報告書を作成しながら香港での一ヵ月間を振り返ると本当に充実していたなと感じられます。この一ヵ月で学んだこと、感じたことを忘れずにこれからも日々成長できればいいなと思っています。そして、先生方をはじめとして、研修に関わったすべての人に感謝しています。

【市瀬 凜】 何度この夏を振り返っても、この時期にこの研修に参加できて本当に良かったと思う。一緒に香港に飛んだ一橋の学生の皆さん、授業を開設してくださった太田先生、奇先生、そしてHISの堀部さん、その他この研修に関わってくれた全ての人に本当に感謝しています。そして私のやりたいことに対して、批判1つせず快諾してくれた家族には心の底から感謝しています。ありがとうございました。

【辻 宏美】 この文章を書いている今も、香港に帰りたくてむずむずしています。こう思えるほど楽しめたのは、このメンバーだったからだと思います。人との出会いに恵まれた研修でした。この研修に関わったすべての人に感謝します。

全学プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部3-4年生 大学院生	一橋大学海外派遣留学制度（交換留学制度）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 本学協定校への交換留学（留学期間1年以内） ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等有り ● 募集人数130人程度 ● 単位互換認定可
学部3-4年生	グローバルリーダー育成海外留学制度	大学基金 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・ハーバード大学 ● 英国・オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、LSE ● 派遣留学期間1年以内 ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ● 募集人数4人程度 ● 単位互換認定可
学部2-4年生	一橋大学サマースクール等留学制度	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・ペンシルヴァニア大学 ● アメリカ・スタンフォード大学 ● アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校 ● アメリカ・カリフォルニア大学アーヴァイン校 ● アメリカ・カリフォルニア大学デーヴィス校 ● 英国・LSE ● フランス・パリ政治学院 ● スペイン・ESADE Business School ● 中国・北京大学 ● シンガポール・シンガポール経営大学 ● 留学期間1~2ヶ月程度 ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ● 単位互換認定可
学部生	短期海外研修（夏期・香港中文大学）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国・香港中文大学 ● 留学期間4週間程度（夏季授業休業期間中） ● 6単位認定、大学院生は単位認定不可 ● 語学研修3週間+合同インターン型教育プログラム1週間 ● TOEFL 500 (ITP)以上が望ましい
	短期海外研修（夏期・モナシュ大学・グローバル・プロフェッショナル・プログラム）		<ul style="list-style-type: none"> ● オーストラリア・モナシュ大学 ● 留学期間4週間程度（夏季授業休業期間中） ● 6単位認定 ● TOEFL71(iBT)、IELTS5.5程度を有すること ● TOEFL530(ITP)、TOEIC700も可能
	短期海外研修（春期・スペイン企業派遣）		<ul style="list-style-type: none"> ● スペイン・Berge社 ● 留学期間5週間程度（春季授業休業期間中） ● 7単位認定 ● TOEFL79(iBT)、550(PBT)、TOEIC730、IELTS6.5程度（スペイン語能力（DELE中級以上）保持者は優遇）
	短期海外研修（春期・シンガポール経営大学・マレーシア工科大学）		<ul style="list-style-type: none"> ● シンガポール・シンガポール経営大学/マレーシア・マレーシア工科大学 ● 留学期間3週間程度（春季授業休業期間中） ● 4単位認定 ● TOEFL525(ITP)以上が望ましい
学部生	海外語学研修（英語）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● アメリカ・スタンフォード大学 ● アメリカ・カリフォルニア大学デーヴィス校 ● アメリカ・カリフォルニア大学アーヴァイン校 ● アメリカ・ペンシルヴァニア大学 ● アメリカ・ボストン大学 ● アメリカ・テキサス大学オースティン校 ● 英国・グラスゴー大学 ● 英国・エセックス大学 ● 英国・サセックス大学 ● オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学 ● オーストラリア・クィーンズランド大学 ● オーストラリア・モナシュ大学 ● 留学期間4週間程度（夏季又は春季授業休業期間中） ● 5-6単位認定(派遣先大学により異なる) ● 派遣先大学毎に異なる語学要件等有り
	ドイツ語短期海外語学研修	<ul style="list-style-type: none"> ● ドイツ・アーヘン語学アカデミー ● 留学期間4週間以内（夏季授業休業期間中） ● 6単位認定 ● 大学院生も参加可能だが、単位認定不可 	

経済学部・法学部・社会学部グローバル・リーダーズ・プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	経済学部短期海外調査（アジア新興国）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は中国を予定 ● 留学期間10日間程度（夏季授業休業期間中） ● 春・夏学期基礎ゼミナールおよび秋・冬学期基礎ゼミナールとセットで履修し、8単位認定
	経済学部短期海外調査（EU圏）		<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度はフランス、ベルギーを予定 ● 留学期間11日間程度（春季授業休業期間中） ● 秋・冬学期基礎ゼミナールとセットで履修し、6単位認定
学部3-4年生 大学院生	法学部GLP国際セミナー（ベルギー）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度はソウル大学・ルーヴアンカトリック大学を予定 ● 留学期間2週間程度（夏季授業休業期間中） ● 2単位認定 ● 全学部を対象とする
学部3-4年生	法学部GLP国際セミナー（韓国/英国/台湾/中国）		<ul style="list-style-type: none"> ● 今年度は韓国・英国・台湾・中国の4つのプログラムを予定 ● 留学期間は3日間~4日間程度 ● 2単位認定
社会学部生	社会学部GLP海外短期調査（海外フィールドワーク）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ● 留学先はフィリピンもしくはマレーシアを予定 ● 留学期間は1週間程度（冬季集中講義期間中） ● 4単位認定 ● 社会学部生を優先。ただし、参加人員に余裕がある場合、全学部生に解放予定

日本学生支援機構 (JASSO)

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生 大学院生	官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国籍を有する者又は日本永住者 ●留学終了後、日本の在籍大学で学業を継続又は学位を取得する学生 ●月額の滞在費に加え、授業料及び留学準備金を支援 ●家計基準あり
大学院生	海外留学支援制度（大学院学位取得型）	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●外国の大学院での修士又は博士の学位を取得する者 ●支援期間は修士2年以内、博士課程は原則3年以内 ●月額の滞在費に加え、別途授業料を支援 ●その他、学業成績要件、語学要件、年齢制限等あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（海外）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●留学年度の前年度に、国内の大学等を卒業（修了）見込みであり、進学（入学もしくは編入の者）をする者 ●申込手続き完了時において、国内の大学等を卒業（修了）後3年以内の者 ●貸与月額（選択制） 大学：3万円、5万円、8万円、10万円、12万円 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（短期留学）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●国内の大学に在籍中に、海外の大学・大学院・短期大学に3ヶ月以上1年以内の短期留学をする者 ●貸与月額（選択制） 大学：3万円、5万円、8万円、10万円、12万円 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり

※日本学生支援機構(JASSO)の海外留学奨学金パンフレットにも、奨学金情報が網羅されています。日本学生支援機構 海外留学のための奨学金 http://www.jasso.go.jp/study_a/scholarships.html

一橋大学基金海外留学支援奨学金等

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	一橋大学海外留学奨学金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●如水会・明治産業株式会社・明産株式会社の寄付による ●一橋大学海外派遣留学制度による派遣留学生（学部生のみ）全員への奨学金支援 ●留学準備金及び滞在費の支援
大学院生	一橋大学基金大学院生海外留学奨学金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●奨学金支援期間1年以内 ●募集人数4人程度 ●月額の滞在費に加え、別途研究活動費を支援 ●留学中は休学することも可能
学部生	榊原忠幸基金海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●故榊原忠幸氏の御令室の寄付による ●学業優秀で、かつ経済的支援が必要な者 ●海外語学研修(英語)の派遣先大学の参加費用・滞在費等の支援 ●支援人数年間10人程度
学部生	堀海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●堀誠氏の寄付による ●愛知県内の高等学校を卒業した者で、通年（1年間）に渡り交換留学を行う者 ●留学に必要な経費の支援 ●支援人数年間5人程度

その他の民間財団等の海外留学奨学金

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/scholarship/index.php>

民間財団等が募集を行う海外留学のための奨学金があります。奨学金によっては、学内選考が必要な場合がありますが、直接応募できるものが多数です。民間財団等の奨学金のうち、大学に公募情報が届いたものについてはこのページおよび国際研究館1階国際課前の掲示板にも掲載しています。

関係URL等

プログラム	URL
一橋大学海外派遣・グローバルリーダー育成留学制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/haken/index.html
一橋大学基金大学院生海外留学奨学金制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/grad/index.html
一橋大学サマースクール等留学制度	http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/news.html
海外語学研修（英語）	http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/news.html
ドイツ語短期海外語学研修	https://sites.google.com/site/gogakukenshu/
短期海外研修（スペイン、香港、シンガポール、モナシュ）	http://international.hit-u.ac.jp/jp/courses/index.html
経済学部 短期海外調査	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/?page_id=7
法学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www.law.hit-u.ac.jp/faculty/glp
経済学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/
日本学生支援機構等の奨学金について	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/jasso/index.html

お問い合わせ先

国際教育センター留学生・海外留学相談室 URL: <http://international.hit-u.ac.jp/jp/cge/advising/>
学務部国際課 TEL: 042-580-8764 / E-mail: int-gs.g@dm.hit-u.ac.jp

教務課グローバルスキルズチーム（海外語学研修（英語）及び一橋大学サマースクール等留学制度）
TEL: 042-580-8175 / E-mail: g-skills.g@dm.hit-u.ac.jp

※上記のプログラムは、平成29年9月末日時点の予定であり、今後予告なく変更・追加等が生じる場合があります。